253
881

総力戦教育

下中弥三郎 著

0055395000

0055395-000

253-881

総力戦教育

下中弥三郎・著

昭和図書

昭和16

AJA

253
881

秘力戦艦

下中彌三郎著

539

總力戰教育

下中彌三郎著

昭和圖書株式會社

253
881

序

大規模長期戰を勝ち拔くためには、國民みな戰士の覺悟で各の職域を守り、職域において、最善の御奉公を致さねばならぬ。この書は、教育者諸君に讀んで頂きたくて發表する次第であるが、私も、長年教育界に身をおいて來た關係上、退役教育者の一人としての職域奉公積りで此の書を發表する次第である。

教育者諸君、教育戰士諸君、諸君は、諸君の教へ子を戰線に送つてをられる。銃後にも送つてをられる。現に指導してをられる教へ子達も、またやがて、戰場に銃後に送られなくてはならぬ。次ぎ次ぎ新しく諸君の膝下に入學し來る小國民達も、また諸君の指導を經て何れは戰場に銃後に送られなくてはならぬ。

何となれば、今度の戰爭は、世界的規模における總力戰であり、三年や五年や十年で片づく戰爭ではなくて、實に百年戰爭だからである。」

今度の戰爭は、從來の單なる武力戰ではなくて、戰線銃後を通じての政治的、經濟的、文化的戰爭だからである。戰場において勝利することは無論必要ではあるが、それだけではなく、銃後の活動においても、均しく勝利せねばならぬ。體力においても勝たねばならず、精神力においても勝たねばならず、訓練力、組織力においても勝たねばならず、銃器機甲、船車、すべての裝備においても勝たねばならぬ。しかも、それの基礎準備は、いかにして誰が培養するのであるか、その基礎的準備の第一歩は、諸君によつて、實に教育戰士諸君によつてなされなくてはならぬのである。

國民戰士の體力も知力も意志力もあげて諸君によつてまづ培はれなくてはならぬのである。考へ來れば教育戰士諸君の任務や實に重しといふべきである。

本書は、靜岡縣、千葉縣、埼玉縣において、教育者の會合の席上における講演筆記を訂正し、別に會て發表した教學關係の一文を加へて一冊としたものである。從つて、重復もあり、順序も立つてはをらぬが、教育戰士諸君の物の考へ方を考へ直して頂く上に何程かの御參考にもならば幸である。

食ふか食はれるか、勝つか、負けるか、興亡の岐路に立つてをる日本、而も絶對に亡びてはならぬ日本、否、亡ぶることの絶對にあるべからざる日本、此の日本を皇國日本として先づ把握し、皇國日本の使命をはつきりと自覺すると同時に、その使命遂行に邁進する戰士の育成、これこそが、教育戰士諸君に與へられたる第一任務である。政治經濟、產業文化、あらゆる國民戰士の教養は、あげて使命遂行の手段なりとして考ふべきである。一言、卷頭に題して、教育戰士諸君の奮起を促がす次第である。

昭和十六年十月一日

下中彌三郎

目次

皇國の使命と教育

一、みたみわれ生ける驗あり……三
二、滿洲事變後の日本の發展……三
三、亞細亞を亞細亞人の亞細亞に……七
四、精神文明に於ける東洋の優秀……九
五、ヨーロッパ文化の七十年……一二
六、日本には三たび岩戸隱れが……一五
七、明治神宮寶物殿の御寫眞と玉松操……二三
八、世界皇化の先覺大國隆正……二六

九、日本が新に世界に輝き始めた……二八
一〇、日本人自ら日本を忘れてをる……三三
一一、米國の參戰と全面的世界戰爭……三五
一二、世界建設の理想と教育……三八
一三、皇國國體と現人神信仰（其一）……三九
一四、皇國國體と現人神信仰（其二）……四四
一五、皇國の本義に眼覺めよ……四八
一六、大祓の眞義……五一
一七、皇業翼賛の自覺に立て（其一）……五三
一八、皇業翼賛の自覺に立て（其二）……五九
一九、三國同盟の御詔勅のままに……六五

世界戰と教育

一、全面的世界戰爭……七一
二、アメリカの獨ソ戰觀……七五
三、總力戰の意義（其一）……七九
四、總力戰の意義（其二）……八三
五、世界總力戰と教育戰……八七
六、崩壞するベルサイユ體制……九一
七、日本的世界觀と世界新秩序……九五
八、皇亞建設と亞細亞經濟圏……九七
九、世界建設戰と教育……一〇〇
一〇、總力戰に於ける科學教育……一〇四
一一、無限戰爭と教育者の責務……一〇九

教育翼賛に就て

一、容易ならぬ戰爭……一二五
二、アメリカは何時參戰するか……一二五
三、アメリカの國內諸事情は參戰を阻む……一二八
四、獨ソ戰爭と對英上陸作戰……一二四
五、大規模長期戰必至の世界戰局……一二六
六、全面世界戰の世界史的意義……一二八
七、武力戰であり教育戰である……一三三
八、中央協力會議の教育論議……一三五
九、大規模の修史事業を起せ……一三五
一〇、入學試驗問題（內申書問題）……一三八
一一、教員の待遇問題……一四二

一二、中等學校に於ける外國語の問題……一四五
一三、科學教育振興の問題……一四七
一四、教育革新と教育の理想（其一）……一五二
一五、教育革新と教育の理想（其二）……一五四
一六、教育革新と教育の理想（其三）……一六四
一七、教育制度の革新……一六八
一八、教育の生產性並に科學性……一七三
一九、學生動員と婦人動員……一七五
二〇、結局日本が世界指導の中心……一七八

皇國教學の大本

一、明治初期の教育思潮……一八三
二、自由教學精神の擡頭……一八七

三、自由民權思想……一九〇
四、幼學綱要の編纂……一九五
五、明治天皇と帝國大學……一九六
六、帝國大學と憲法學說……一九九
七、國體と美濃部學說……二〇〇
八、美濃部學說の誤謬（其一）……二〇二
九、美濃部學說の誤謬（其二）……二一〇
一〇、憲法の解釋を國定せよ……二一四

皇國の使命と教育

一、みたみわれ生ける驗あり

御民吾生ける驗あり天地の
榮ゆる時に遇へらく念へば

というふやうに萬葉の歌人が歌つて居りますが、今日の時代は非常に大きな時代であり、日本の歴史的使命が遂行されるその姿を眼の當り見て、この萬葉の歌人が歌つた「生ける驗あり」――生き甲斐のある感じのする時代であります。又それだけに國民の責任の重大な時代でもあります。

二、滿洲事變後の日本の發展

滿洲事變この方日本の國力は日に〳〵伸びて居るのであります、滿洲に於ける建國は十年にして既にその基礎を固めて居ります。支那事變以來皇軍將士の目覺しい活躍に依つて支那四百餘州の重要な地域は殆ど占領し盡して、さうして北支那にも中支那にも將た南支那にも大いなる地域を確保して居ります。就中、北支那の如きは一方にゲリラ戰の行はれるのを退治しつゝ新しい支那の建設に進んで居ります。最近行はれた中原作戰の如きは、世界の戰史以來未曾有の成功を收めて居ると申しますが、此の中原作戰の成功に依つて北支那に於ける從來の匪賊の跋扈跳梁を食止めることが出來るのでありませうし、又今度の中原作戰に依つて殲滅された敵は、從來保存し來つた所の蔣介石の直系軍であるといふ點に於て、未曾有の戰果を收めたことになるのであります。中支那、南支那と伸びて更に其の餘力は佛領印度支那に、更にタイ、ビルマ、マレーに對して新しい日本の力が加はつて行きつゝあるのであります。やがては、フイリツピンにも、インドネシヤにも新しい日本の力はグイグイ伸びて行くでありませう。

かくの如くにして神代以來唱へられて來、又考へられて來た所謂『國生み』の神業が今

漸々として進展しつゝあるのであります。國を生むといふ思想は、日本獨得のものでありまして、今日ではドイツが日本の『國生み』の思想に倣つて國生みを始めて居るのであります。國を生むといふ考へは曾て行はれたイギリス、フランスの植民地半殖民地の獲得といふやうなものとは全く趣を異にして居る、本質を異にしてをる、國生みといふのは必ずしも其處に人が生れるのではない。土地が生れるのではない。人もありまた土地もあるけれども國となつて居ない民族がある。國を成して居ない國を國たらしめる所の働きを國生みといふのであります。即ち秩序なき所に秩序を齎らす、生活の不安なる所に生活の定定を得せしむる、さうしてそれらの民族にやがては新しい理想を與へるといふことが、即ち國生みの意義であります。

併しながら斯樣に喜ばしい仕事に吾々が今現に翼賛して居るといふことは、同時に非常なる責任を帶びて居ることであります。大伴家持が歌つたやうに

海行かば水漬く屍、山行かば草むす屍
大君の邊にこそ死なめかへりみはせじ

の覺悟を持つて一切を天子様に捧げ盡す決意を固めて進まなくてはならない、非常に苦難な道でもあるのであります。一面には輝かしい歡喜を味はひながら、一面には非常なる苦難の道を進まなくてはならない。地圖を御覽になれば分りますやうに、日本は此の地圖に現はれて居ります通り、確かに世界の眞中であります、而も背にアジア大陸を背負つて世界最大の海洋である太平洋を自分自らの庭先の池と眺めながら立つて居る、太平洋を支配するものは世界を支配するといふことは、ドイツの地理政治學の大家ハウスホーフアーあたりの言つて居るところでありますが、日本こそ、その世界を支配する最も應はしい地位に立つて居るのであります。併しながら現在に於てはなほアングロサクソンの帝國主義侵略の殘滓が此の太平洋の所々にがんばつて居る、その西南太平洋に於ては、日本に對して公然戰ひを挑みつゝ巨大なる地域に頑強なる武裝を凝らしつゝあるのであります。能く言はれまするやうに、日本は日本自身が其の使命を遂行する爲には、滿洲支那の諸地域を一つに合はして新しい經濟地域、資源地域といふものを固めただけではまだ足りない、どうしても西南アジアの、西南太平洋の島々に於ける豐富な資源をこれに合はせて初めて全き

を得る、それ故に日本の使命を遂行する爲には是が非でも南の、西南太平洋のそれらの地域、其の資源を確保しなければならない。而も其の資源を渡すまいとして彼等はなほ頑張つて居るといふ狀態である。しかも、此の狀態を打破して、さうして所謂廣域經濟圈、アジヤ太平洋經濟圈といふものを玆に確立することは、日本の歷史的使命を遂行する基礎的狀件となるのであります。

三、亞細亞を亞細亞人の亞細亞に

こゝで吾々が考へなければならないことは、吾々が今爲さうとして居ることはアジアの諸國諸民族の長らく虐げられて居る狀態の解放といふことである。アジアをしてアジア人の手に奪還するといふことである、日本自らの利己的理由に依つての國生みではなく、アジアの諸國、諸民族をして其の所を得せしむる所の戰ひである。それ故にアジアの復興の爲に、アジア諸民族解放の爲に、アジアの地域に存する資源を日本自らが利用するといふ

ことは何の遠慮すべき理由もない、といふ點であります。アングロサクソン卽ち、或はイギリス、或はアメリカ、ラテン卽ち或はフランス、或はオランダの諸國が其處に根據して居るといふことは謂はゞアジアの地域を擅に横奪して居るのである、横奪したものを奪還する、力さへあるならばこれを奪還するといふことに何の不條理もないといふこと、このことを吾々ははつきりと知つて居なくちやならぬと思ふのであります。吾々は今アジアの救ひ主として立つて居る、さうして今申したやうに眞實にアジアの資源をアジア人の爲に開拓し、その資源を近代工業の形に組織して、アジア太平洋經濟圏を確立する時、これまで、長年に亘つて白人帝國主義の桎梏下にあつた所のアジアは悉く解放せられる、さうしてこれらの諸地域に新しい倫理と、新しい科學と新しい豐かな生活とを齎らすことが出來る。日本が今爲さんとする所は先づ以てこれらの地域に新しい科學、新しい倫理、さうして新しい豐かな生活を齎らすといふことである。この理想を實現することが、卽ち　神武天皇の御詔勅に示されてある八紘一宇の理想を實現する所以であります。勿論今日の世界の情勢からすれば、アジアをアジアだけに考へることは出來ない、アジアに新しい秩序を

齎らすといふことは、軈て全世界に新しい秩序を齎らすといふ考へが豫想せられて初めて可能なのである、アジア新秩序の建設は、世界新秩序の建設と切離して考へることは出來ないのであります。

四、精神文明に於ける東洋の優秀

今日までヨーロッパは、殊に近代のヨーロッパは科學主義文明の發達に於て、物質支配の力は增大したが、精神方面、道德方面に於て寧ろ低下して來て居る。さうして既にヨーロッパの諸學者が道破して居りまするやうに、西洋は既にこの戰の始まる以前から沒落の過程を辿つて居たのであります。例のシュペングラーが、「西洋の沒落」といふ書物の中に述べて居るやうに、「ヨーロッパは既にもう再起の見込がない、こゝに新しい東洋の魂に依る東洋の精神が注入せられる以外に甦る道はない」といふことを言つて居りますやうに、ヨーロッパは既に沒落に瀕して居たのであります。今日ドイツが、東洋の、日本の歷

史、傳統に學んで、ヨーロッパの個人主義、民主々義、自由主義といふやうな近代ヨーロッパ傳統の思想をかなぐり捨てゝ、全體主義の哲學に依つてヨーロッパの再建に着手して居る、ヨーロッパに新しい秩序を齎らす爲に起上つて居る、これはヨーロッパ自らのものではなくして、アジアの精神、就中、皇國日本の精神を取入れて居るのであります。吾々は尊敬すべきものを尊敬することに、非常に素直であるために今日ドイツのあの勇敢なる戰ひ振り、あの目覺しい勝利に對して非常な尊敬を拂つて居るのでありますが、その實ドイツは、第一次大戰敗戰後のドイツは、日本の家族的、血族的、全一的民族主義に非常な感銘を覺えて、それに倣つて新しいゲルマン國家、古への野蠻人ゲルマンの魂を振ひ起して今次の大なる活躍、ヨーロッパの再建運動に乘出して居るのであります。それ故にこの間イギリスに失踪したあの副總裁のヘスの如き、ヒトラーは勿論でありますが――又『二十世紀の神話』といふ本を書いて居るローゼンベルグの如き、或は今申しましたハウスホーファーの如き、みな熱心な日本の研究者であります。古事記、日本書紀、萬葉集といふやうな研究がドイツに盛であるばかりでなく、ドイツの現代の指導者は、吾々日本人が既

に忘れかけて居る所の神皇正統記のやうな書物までも讀んで居るのであります。御承知のやうに、神皇正統記の開卷第一の文字は、日本は神國である、日本は神の國であるといふことから書き出されてあるのでありますが、その神國日本に對してドイツの指導者達は非常な崇敬を持つて居るのであります。これは推測でも何でもない、現に藤澤親雄君が最近もドイツに行つて歸られたが、その前にドイツに行つて居られた時に既に日本の傳統と歷史を讃美し、日本哲學を非常に崇敬して居る事實を見聞して實は驚いたと申して居りました。先年、秩父宮樣が英國皇帝の戴冠式に臨まれての歸りに、ドイツにお立寄になつた時ヒトラー總統は全く土下座せんばかりに鄭重な禮を取つて秩父宮樣を迎へたと傳へられて居ります。それ程に彼等は日本に學んでをる、力を源泉を日本から得て居る、即ちドイツの今日發揮して居る力はその源泉を東洋に得て居る、就中日本に得て居るのであります。ドイツには御承知のやうにカントの後にカント哲學に新しい生命を與へ、新しい方向を示したあのショーペンハウエル、その次にショーペンハウエルに學んだニイチエの如き、やはり東洋哲學の崇敬者であります。就中ショーペンハウエルの如きは東洋學に依つて、カ

ント哲學を批評的に發展せしめて、「意志と現識の世界」といふ本を書いて居るのであります。ドイツには東洋崇敬の思想が前から流れて居つて、今日それが結實して、今日のドイツ哲學、全體主義思想となつて居るのであります。

五、ヨーロッパ文化の七十年

然るにどうでありませうか、日本自らは、日本は逆に維新以來七十年間、今年は七十四年でありますが、その長い間――少くも、その間の六十年間は全くヨーロッパ日本であつた。日本でありながら日本でなくしてヨーロッパ日本であつた。總てヨーロッパに學ぶことに汲々として如何なるものもヨーロッパのものならば宜しいと考へてそれを取入れるに汲々として居つたのであります。これは一面から言へば思想的開放主義のよくない點であるとも考へられるのでありますが、同時にそれがまた日本人の本質を發揮して居るのであります。日本人は總てのものに對して眞面目である、一途に一つのものを追究する、或る

ものに熱心になり始めれば一生懸命にそれを追及して行くといふ特性がありまして、その結果深入りし過ぎて居ると言へば言へるでありませう。又それならばこそ日本は世界の有りと凡ゆる思想、學問を吾々の血となし肉となして今日まで成長して來たのであります。始めに先づ佛教文化、次いで儒教文化、これらを悉く取入れて、自分のものとしてしまつた。併し日本に固有のものは捨てなかつた。隨つて日本に傳はつて居る、行はれて居る佛教にしても本當の佛教ではない、所謂日本佛教である、儒教の如きも今日の支那には殆ど滅びてしまつて居る、儒教の精神は求めて支那に得ることは非常に困難であるに拘らず、日本には儒教のその良いところが保存せられて居る。キリスト教の如きもこれは遲れて入つたのでありまするけれども、日本には狂信的なキリスト教徒がある、ところがそのキリスト教が既にヨーロッパには廢れてしまつて居る。あのキリスト教信者の賀川豐彦君などは先年ヨーロッパを廻つて歸つた時の話にヨーロッパでは教會に人は集まるけれども、これは單なる儀禮的なものだ、ヨーロッパ人大多數の信仰して居る所のものはやはり淫祠邪教の類であるといふことを申して居りました。到る處に教會はあるが單なる儀禮になつて

しまつた。そして、日本で謂ふ所のお稲荷信仰、或は海神信仰といふやうなものと同じやうなもの、或は又天理教とか大本教とかいふ謂はゞ邪教に近いやうなものが日本にも行はれつゝありますが、ヨーロッパにはさういふ淫祠邪教めいたものが專ら行はれて居て、本當のキリスト教は跡を絶つて居るのではないかと申してゐました。而も日本には今窒塞の狀態にありとは言へ、なほ多數の眞面目な眞劍なキリスト教信者がある。斯ういふことを考へると、日本人には、物事を一途に追究して、窮めねば已まないといふ長所が備つて居る。隨つて今日、凡そ六十年間ヨーロッパ教育が行はれたからと言つて必ずしも咎めてはならない。寧ろそれらのヨーロッパ精神を取入れたからこそ、今日アジアの地表に於て特立する、ヨーロッパ文明に對抗し凌駕し得るやうな力を蓄へ得たといふことが出來るのであります。必らずしも咎むべきではないけれども、而も今日尙ほその殘滓が到る處に澱んで居てこの大いなる時代に、日本の眞面目を發揮すべき時代に、それが妨げをなすといふやうなことは心外千萬の次第であります。

六、日本には三たび岩戸隱れが

日本には、岩戸隱れが三度びあつたといふことを史家は申します、一たびは言ふまでもなく天照大神の高天原に於ける岩戸隱れ、それから神武天皇御建國後に於て崇神天皇の時に、三種の神器を笠縫邑に遷され、それからその神威を汚さんことを畏れられて、轉々その納り場所をお探しになつて二十幾箇所、遂に今の五十鈴川の川上、卽ちお伊勢さまにお鎭まりになつたのでありますが、これは當時、渡來文明の潮流が滔々として日本を侵し、日本の眞面目を失ひはしないか、同床同殿の御神勅には違ふけれど、渡來文明を受入れる場合に、神威を汚してはならないといふ御配慮から最も安全な地にお遷しになつた、それがやはり一つの岩戸隱れであると言はれて居ります。その後ずつと、離れてゞはありますが、佛教が入り儒教が入つで日本に色々な文化を齎らしました。それは日本文化に寄與する所は多かつたのでありますが、同時に日本の眞面目は次第に薄らいで、その爲に、所謂

武家政治の端緒が開かれ、鎌倉幕府が開かれて以來といふものは所謂惟神の皇國日本の本來の姿といふものが晦まされてしまつた。それが明治維新にまで續いたのであります。軍人に賜はりたる御勅諭の全文を讀めば、外國文明の浸潤が如何に皇國日本の眞面目を汚して居るかゞあり〳〵と讀取れるのであります。建武の中興は武家政治、幕府の專横に反抗してこれを破碎する爲に後醍醐天皇が大御心を籠めさせられてなされた大御業でありました。一旦は成就しましたが中途挫折しました、それは佛教及び儒教の浸潤が深くして本當の皇國日本の思想が見失はれて居つた、さういふ所に原因があつたのであります。

それから數百年、つひに明治維新が成就したのであります。この明治維新の指導精神は言ふまでもなく皇道の興隆であります、古道の復興であります。佛教、儒教、キリスト教的外來文化を排して、日本固有の惟神の大道を顯現するといふことが明治維新の國是であつたのであります。而もその國是は明治元年から明治五年までの間に一時興隆し始めましたけれども、遂に外國文明、卽ちヨーロッパ文明を取入れざるを得ないやうな狀態になつて日本としては一時その本質を晦まされざるを得なかつた。これが第三の岩戸がくれであ

つたのであります。明治五年の學制頒布は日本の精神に依つてなされたものではない、ヨーロッパ精神を善用し利用するといふ意味に於てなされた學制でありまして、さうして明治元年から明治五年に至る間の色々な國學者、日本主義者のその苦勞した建設的意圖といふものは、全く覆ひ隱されてしまつて、教育史の上には顏を出して居ないといふやうなことになつてゐるのであります。これは教育上重大な意味を有してをりますから、そのことに少し觸れて見たいと思ひます。

皆さん、明治神宮にお詣りになりまして、時間が許せば明治神宮の後にある寶物殿を拜觀なさい。寶物殿の入口の直ぐ側の箱に——明治神宮の寶物殿は　明治天皇の御遺愛の品々が並べられてゐます。概ね質素なものばかりでありますが、その　明治天皇が愛用せられた机とか硯箱とか、御着用になつた衣服とかお讀みになつた書物とか床飾にされた置物とか、さういふものが皆質素なものばかりでありますが、机の如きも白木のものでありますが、それらが並べてあります。その中に寫眞が二枚並べてあるのであります。その寫眞

は二枚とも岩倉具視と玉松操對坐の圖なのであります。御一新前に、岩倉具視は、和宮御降嫁事件の爲に、世間の誤解を招いて岩倉村に蟄居して居ました。その頃、玉松操といふ人が、明治維新の建設に就いて智慧を貸した、その時の對座の圖であります。卽ち岩倉具視が最も哀れな時代、岩倉村に蟄居して勉强して居る時に、玉松操が献策して居る所の對座の圖であります。もう一つは、明治維新が成つて岩倉具視が臺閣に列し、左大臣として政府の一番樞要の地位に就いて、江戸の城中に居る時に、其處へ玉松操が訪ねて行つて對坐して居る圖であります。この二枚の圖が寶物殿にあるのであります。この圖はどうして出來たものかと調べて見ますと、斯ういふ圖を書けといふことを　明治天皇が繪師にお命じになつて態々その圖を作らせられた。その作らせられた圖を寫眞に撮つて保存されてあつたのであります。何故かと申しますと、明治維新の理想について、最初岩倉具視はじめ薩長土の諸有志は建武中興の引續きを完成するのだ、斯ういふ考へ方でやらうと致した、後醍醐天皇が御失敗になつた跡を成功させるのだ、幕府の横暴を抑へて、さうして政を朝廷にお返しさせて、天皇の御親政を實現するのだ、斯ういふ考へであつたのであります。

ところが玉松操は、それではいけません。建武中興の失敗の原因、それは鎌倉幕府を討つ爲に僧侶の力を借りようとなされた、寺々の僧兵の力を借りようとされた、さういふ所に誤謬の原因があつた、來るべき維新は、神武建國の古に復するといふ大理想を以て御計畫にならなければなりません、といふことを岩倉具視に玉松操が建言した。岩倉具視のお祖父さんに當る岩倉具集といふ人も、曾てさういふやうなことを言つて居つたのを思ひ出して、なるほどさうだ、それが宜からうといふので岩倉始め一同贊成をして、神武建國の古に則つて、維新の皇謨を翼贊して行く、維持の大業を成就するのだと斯ういふやうに決めた、その玉松操の献策のことを思ひ出されて、畫に描かされた、それがその一つであります。然るに愈々明治維新が成つたとき、明治天皇は、皇道興隆の勅問を御發しになりました、惟神の大道に基いて維新の宏謨を翼贊するにはどういふ方法に依るべきであるかといふことを臣下を集めて勅問して居られます。皇道興隆でについての勅問が出る程でありましたから、各藩から國學の大家をだん〳〵召上げられました。また藩の有志が自分から進んでさういふ學者を中央に上せました。徵士、貢士がそれであります。徵士といふのは、

彼處にかういふ學者が居るといふことをお調べになつて、中央へ出て來いといふ譯で、お召びだしになる、これをいふのです。また私の藩校には斯ういふ學者が居ります、この人を用ひて下さいと言つて藩主が進めるのを貢士といふのであります。かういふ人々が百人近くも新政府に集まつて、さうして皇道興隆の運動を初めました。先づ第一に、邪宗門禁制といふ札が辻々に立てられた、それに次いで神佛分離の運動が起つた、維新前から佛敎排擊の運動は水戸あたりにはあつたのでありますが、それが爆發して先づ神佛分離、お寺と神社が一緒になつて居るのを、神社から寺を引離してしまふといふ運動が起りました。それからさらに所謂排佛棄釋運動、佛寺を破壞し佛像を破壞するといふやうな運動が到る處に起りました、僧侶は仕方がないから俄かに衣を烏帽子直垂に換へて神に仕へるといふやうな早替りをしました。この排佛棄釋運動は、始めは非常に熾烈なものでありました。鹿兒島などは西鄕さんの言ひ分に從つて眞先に排佛棄釋を始めた。ですから島津家の菩提寺である鹿兒島の福昌寺、この寺は今でも破壞せられた儘になつてをります。福昌寺の跡には今はたゞ石塔がニョキ〳〵と立つて居るに過ぎない、東京の日枝神社の如きも日枝神

社に合せて祀つてあつた所の佛像佛具その他のものを取り出して燒いてしまつた、叩き壞してしまつたといふやうなことがあつたのであります。邪宗門禁制と排佛棄釋、これが皇道興隆の二つの方法としてなされたのであります。即ち大敎院といふものが出來まして、所謂敎則三條といふものを定められ、その敎則三條を實施する爲に宣敎師といふものが遣かれました、これが今日の丁度大政翼贊會の推進員のやうに全國に散らばつて皇道興隆運動を始めたのであります。ところがそれが、二三年と經たない中に挫折してしまつた、何故に挫折したか、これは皆さんの中には御存じの方があると思ひますが、外國の公使團が聞きつけまして、邪宗門禁制といふのはどういふことですかと言つて政府に詰寄つたのであります。邪宗門といふものが若し切支丹であるならば貴國は吾々の國の人々の信じて居る宗敎を排斥されることになる、向後お交際をすることは出來ない、かういふことを言ひ出した、いや君達の國の宗敎といふ譯ではない、邪宗門——邪まな宗門といふ意味で必ずしもキリスト敎を指して居るとは限らない、日本にも昔からさういふ邪まな宗門がある。それを排斥するといふ意味だと言つて、巧く胡魔化したけれども、向ふは承知しない。實

質はまた、切支丹禁制といふことゝ同じである。そこへ長崎表に浦上事件といふのが起つた。當時、皇道興隆の運動は非常に眞劍なものでありましたから、宗門改めといふことをやつた、お前の家は何を信じて居るか、若しキリスト教を信じて居るならば直ちに改宗しなければならぬ、この宗門改めは殊にキリスト教に對しては嚴重でありました。或は十字架を踏ませるとか、キリストの繪を踏ませるとかいふやうな色々な宗門改めの實證を取らうとした、ところが長崎浦上村の三百何十軒といふものが團結して斷じて改宗しない、召捕へても煮ても燒いても改宗しないといふ態度に出て反抗した。そのことが外國の使臣に分つたので、これ又外國からねじこんだ、これほど信じて居る日本人を迫害するといふのは天理にもとる、あまりにひどいではないか、早く釋放したら宜いではないかといふことを言つて來ました、それに抗辨することが出來ない、仕方なしに一旦禁止した所のキリスト教の布教を許さゞるを得なくなつた、最初は宗教のことは我々の方がお手のものです。キリスト教排斥には吾々が從事しませうなどと言つてゐた眞宗の坊さん達までが、その樣子を見て、キリスト教の布教を許される位なら佛教の布教も許して宜いではありませんか

といふことを言ひ出した、到頭キリスト教の布教認許に便乘して、一旦止められた佛教の布教をも許されるといふことになつてしまひました。折角、皇道興隆の爲に盡瘁しはじめてゐたにも拘らず、明治五年には教育令が頒布せられ、新しい教育制度が布かれました。大教院といふものは形だけは整つて居つたのであるけれども佛耶の布教を許すと共に、大教院も明治八年に解散してしまつた、これが日本では第三番目の岩戸隱れであります。惟神の大道の岩戸隱れの第三番目であります。さうして激しい皇道の光を一應包み隱して外國文明を受容れるといふ態度に變つて行つた、即ち文明開化といふことが合言葉になつてしまつた。文明開化といふことはヨーロッパ文明を取容れるといふことを意味するのであります。

七、明治神宮實物殿の御寫眞と玉松操

話が前に戻りますが、明治天皇が岩倉玉松對坐の圖をそのやうに保存されて居られるの

はどういふ御聖慮でありませうか、玉松操は、日本の外國化に最後まで反對した人でありました。玉松操は都を江戸に遷されるといふことに先づ反對しました。どういふ理由で反對したかといふと、江戸の近くには、横濱があつて、其處には外國人が館を造つて居る、さうしてそれに接近するといふことは知らず〳〵の間に外國文明の惡影響が日本に及ぶ、影響をうける、これは全く長多いことであるから、朝廷はやはり京都に置いて、執務をするのは江戸でやつても宜いが、都を遷してはならぬ、といふことを非常に强く主張しました。ところが既にもう木戸、岩倉、大久保の間に話しが決まつて居つたものですから、玉松操等の反對がありましたにも拘はらず、江戸への遷都といふことが決定したのであります。

明治天皇は京都の御所にお歸りになられる毎に、京都は宜いといふことを仰せられたと洩れ承つて居ります。斯樣にして無理に遷都は行はれてしまひましたが、もう一つ玉松操が反對した點は、大學々則に三學鼎立の思想を持込んだ點であります。詰り國學も洋學も漢學も同じ價値の高さに並べて考へようとした。玉松操は、皇道を本體として漢學と洋學を

扶翼とするやうにする、國體を辨じ名分を明かにするといふことが大學の眼目である。その眼目を發揮させる爲にヨーロッパの思想も、支那の思想も取容れて宜しいが、何處までも國體が中心である、それを助ける形で洋學漢學を取容れるなら宜いといふ考へであつたのであります。ところが、江戸の學者達は、三學鼎立で行かうとした、皇學洋學漢學が、同じレベル、同じ價値のものとして平面平等に取扱はれる、これが實は今日の所謂自由主義教學の根源になつたのであります。三學鼎立といふことが、自由主義教學の根源になつて居る、玉松操は、當時すでに今日あるのを見越してゐて强く反對したのでありますが、外國の文明を取容れることに急なるあまり、玉松操等の主張は古い、舊式だ、丁髷式だと言ふ風に新政府の連中は考へたのであります。岩倉具視は、五月蠅くなつてしまつて、玉松操を京都に追返してしまつた、遂にこれは岩倉具視が毒殺したのだとまで世間に言はれて居る位であります、その五月蠅い爺さんであつた玉松操、それから、その師匠の大國隆正――これは岩倉具視のお祖父さん岩倉具集の師匠でもありましたが、來るべき維新は神武建國の古に復るといふのが理想でなければならぬといふことを吹込んだその人なのであ

ります。その大國隆正が明治の元年には七十七歳で、まだ生きて居つた、津和野神學の鵜井家、鵜井家の指導役として大きく動いて居たのであります。この大國隆正の思想が卽ち玉松思想であり、又玉松の思想が明治建國の指導精神になつて居たのでありますが、外國文明を受容れなければならない立場にあつた日本としては、それらを抑へ付けてしまはなくてはならなかつた、さうして外國文明を取容れるといふ建前から、アメリカ人ジョホノフトをお雇ひ教師として調査にあたらしめ、明治五年の學制頒布となつたのであります。

八、世界皇化の先覺大國隆正

序に申しておきますが、大國隆正といふ人は、あの嘉永六年ペルリが來ました時分に、『やまとごゝろ』といふ本を書いて水戸の烈公、卽ち德川齊昭に見せて居る位の先覺者であります。その內容は、佛敎とか儒敎とかいふものを非常にけなしてをるので、幕府では弘めることを許さなかつた。大國隆正のことは話せば限りなくありますが、これは本居、

平田の國學の系統を引いて本居、平田の國學を大成した人であります。荷田春滿、賀茂眞淵、本居宣長、平田篤胤を國學の四大人と申しますが、本當はこの四大人の學說を集大成したのが大國隆正であつた、從つて人によつては大國隆正を加へて國學の五大人ともいふのであります。この大國隆正も明治四年に八十歳で死んでしまひました。そこで岩倉さんはうるさい連中が亡くなつて堂々と外國文明を取入れた、かういふわけであつたのであります。かやうなわけで、明治元年から明治五年に至る間の日本敎學の歷史といふものは今日まで出て居る明治敎育史には最近まで何にも出て居らなかつた、それを、山口銳之助といふ人が宮內省圖書頭をして居られた時、宮內省の圖書寮の書物をひつくり返して居る中に、さういふ文獻が續々と出て來た、これは不思議だといふので段々調べた結果、その時分のことが幾分か明かになつてきた。その調べに依ると、所謂徵士とか貢士とかいふので各藩から出て居つた當時の國學者達を皆藩預けといふ名目の下に地方に追歸してしまつて居るのであります。山口さんの言葉で言へば、學者を鏈詰にしてヨーロッパ思想の取入れをやつた、さういふやうな關係からして日本は滔々として歐化主義に流れて行つたのであ

ります。これは、今日の所謂物質文明を取入れ、近代の科學工業を勃興させる上に、非常に役立つた、その點はよかつたが、一方、日本精神の眞骨頂が失はれてしまつた、皇政復古の精神が薄らいでしまつた。これはまことに殘念なことであつたのであります。

九、日本が新に世界に輝き始めた

しかし今日日本では、全世界のあらゆる勝れた思想を取入れてしまつて居ります。もう此の上外國から仕入れる思想もなくなつてしまつたのでありますから、今度は本當に岩戸開きをせなければならぬといふ所に來て居る。昭和六年の滿洲事變は卽ち岩戸開きの第一歩であつた、一度び岩戸が開けて見ると、本當に日本のこの二千六百年の歴史的蓄積といふものがハツキリと現はれて來て、さうして前申したやうな所謂國生みの神業が始まつて來たのであります。今日吾々がドイツの勝れた所に大いに學ぶべきものがあります。けれども、併しそれは、その根源に遡ればドイツが寧ろ日本に學んで居る、それは工業上に

於けるあの勝れたマス・プロダクション（mass production）とか、又それで出來上つた所の飛行機とか戰車とか、さういふやうなものは、まだ日本は及びも付かぬけれども、しかしドイツ興隆の思想は東洋のものであり、日本のものであるといふことは私が前に申上げた所で略々お解りになつたと思ふのであります。

そこで、この際、吾々日本人は、非常な確信を持つて日本自らを振返つて見ることが出來るのであります。先づ日本を日本たらしめなければならない、日本人を日本人たらしめなくてはならぬ、ヨーロッパ日本の七十年を清算して、純粹日本に立かへらなくてはならぬ、かういふ所に來て居る、而もその仕事は國を擧げてやらなくちやならぬことでありますが、主として教育者諸君がその事に當らなくちやならぬのであります。ドイツが日本に學んだといふことを今申しましたが、ドイツばかりではありません、近頃ヨーロッパにおける日本研究といふものは大變に盛んなものであります。先般、國際文化振興會が、外國人から論文を募つた。二千六百年記念の論文を募つた、日本の文化をどう見るかといふことに付ての論文を外國人の間から募つた、全部外國人で、その應募者が五百人あつた、

その五百人が悉く日本の國體を讃美して居る、而もそれは單に付燒刄でもなんでもない、眞底から日本の國體に對する崇敬の心を示して居る、國際文化振興會では、その內容をやがて一般に發表するだらうと思ひますが、少なくとも當選した二十人ばかりは發表するだらうと思ひますが、おしなべていへば、外國人から見て、ヨーロッパの文化には無理がある、理論文化である、日本の文化は自然文化である、だから無理がない、無理がないから壞れない、日本の文化は、人間の生活、人間の歷史に卽して發達した自然文化であるから永遠の發展性をもつて居る。ヨーロッパの文化は、人爲的に理論的に作り上げた文化であるから、一時は榮えても破滅する運命をそれ自體の中に持つて居るのである。それに比べれば、日本の文化といふものは非常に尊重すべきものだ、日本文化は日本の誇であるばかりでなく、人類の誇である、といふやうな意味を言つて居るのであります。それは、國體の然らしむるところではあるが、而もその立證として、彼等は音樂といふやうなものゝ上から、また文學の上から、或は角力、劍道、柔道、圍碁といふやうな國技の上から、色々な角度から、日本を研究して、日本文化の本質を實證して居るのであります。さうしてそ

れはドイツ人も應募して居りますが、アメリカ人も應募してをる、イギリス人はないが、ロシア人も應募して居ればイタリア人も應募して居る、或はフインランド人も應募して居るといふやうな狀態に於てさういふ風な見方が現はれて來て居るのであります。先般亡くなりましたメーソンといふアメリカの宗教家、これは餘り日本に度々來て日本を熱心に研究しましたのでスパイであるまいかといふ疑ひも持たれましたが必しもさうではなかつたやうであります、メーソンは最近死んで日本に葬つてほしいといふので遺骨を送つて來たことを諸君も御承知でせうが、此のメーソンには御承知の神道イズムに關する著述があります。日本文譯が三省堂かで出て居りますが、非常に行屆いた研究をやつて居ります。日本人から見れば、どこか雜駁で理窟ぽい所がありますが、相應な所まで研究して居る、さういふ風に日本自身が今、世界的になつて居るといふことを考へて見ると、日本人自身、少し怠けて居やしないかといふ感に打たれるのであります。」

一〇、日本人自ら日本を忘れてをる

殊に日本の――就中大學あたりの先生達は、日本歴史すら碌に讀んで居ない、日本神話の研究はてんでしてゐない、さういふ人が憲法の講義をやつて居る、それで憲法が分る筈がない、先年、問題になつた　天皇機關説などが出て來るのも當然である。日本の憲法は外國の憲法を斟酌して作られたものには違ひないけれども、出來上つたものは　明治天皇のお言葉である。その解釋は國體に基いてなされなければならない、隨つて憲法の講義をする人々は、どうしても、日本哲學、皇國國體觀の上から解釋しなくてはならない。然るにヨーロッパの民主主義憲法の解釋の方式をこれに當嵌めてやらうとしたから、あの忌むべき　天皇機關説が生れて來たのであります。ですから少なくとも法科大學出身者は――此處にも居られるかも知れませんが、概ねヨーロッパ學の奴であります。何處までもヨーロッパ學に根柢がある、自由主義、民主主義的な傾向を強く持つて居るのであります。又

それらの人に依つて教育行政が現になされても居り、それ等の人々に依つて師範教育が影響を受けて居るとすれば、諸君自らも大體に於て個人主義、自由主義、民主々義者の信奉者であると斷じてよい、かうなるのであります。段々に數年の間に亘つて非常な勢で方向が轉換して參りました。眞實日本に眼覺めて居る人も、勿論追々あらはれるとは思ひますが、斯く申す私自身の心の中にすら、尙ほ、その殘滓がないとは言はれない。隨つて、本當の日本を語るには、まだ非常に力の足りないことを私自身、現に感じてゐるのであります。これはお互ひに戒めて、本當に日本を知る爲に、日本文化の神髄を把握するために、まだ〳〵お互ひにウンと勉强をしなくてはならぬ、日本の本質といふものを日本人自ら、教育者自らが、深く究めて參らなくてはならぬ、かう思ふのであります。

教育の大本に就いては、教育勅語によつてお示しになつて居る通り、明々白々であります。これほど尊い日本哲學、日本倫理學はない、教育勅語は日本學の精髄であります。教育勅語の本質がはつきりして呉れば世界に對して日本哲學を樹立することが出來る。世界に曾て知られなかつた本當の哲學が教育勅語から生れて來る、その勅語に則つて吾々が教

育をして居る以上は過ちなかるべきであるのでありますが、悲しいかな根がヨーロッパ文明に培はれた吾々の頭腦であるために、教育勅語が御題目になつてしまつて本眞劍にその本質を究めないで、たゞ上の空で捧讀して居るといふ狀態に陷つて居るのであります。教育勅語を解釋するには、日本の憲法を解釋するには、國體の本義が明かになつてゐなくてはならぬ、國體の本義、日本歷史の實體を深く〳〵研究して、そこからその理解を深めて行かなくてはならぬのであります。古典の研究、さうして日本の歷史發達の跡、就中神社崇敬の日本風俗といふものゝその本質の中に飛込んで研究する必要があるのであります。天壤無窮の神勅はありましても、その天壤無窮といふことが言葉だけであつては何の力でもない、天壤無窮の神勅があり、天壤無窮の神勅に副ふやうな歷史的事實が嚴存して居るといふ所に、天壤無窮の神勅が生命を持つ、祖先崇拜、所謂敬神崇祖といふことが言葉としてあるばかりでなく、敬神崇祖の具體的事實が神社崇敬の事實の上に儼然として存して居るといふ所に、神勅空ごとならずといふ感に打たるゝのであります。吾々は、教育勅語に依つて學ぶと共にそれに對する理解を深めるために、日本歷史、古代神話にまで遡つて

これを研究色讀する必要があると思ふのであります。

一一、米國の參戰と全面的世界戰爭

さて、吾々が今、當面して居る事態は、如何にも喜ばしい事態ではあるが、また頗る困難な事態である、支那事變はまだ解決せぬ、それにも拘らず何時アメリカとの戰が始まるかも分らない。三國同盟條約の第三條に從つてアメリカが若しドイツに宣戰するならば自動的に日本はアメリカに宣戰しなければならぬ、アメリカは今ドイツに宣戰しようとして居る、なぜ參戰するか、今度のヨーロッパ戰爭はアメリカが尻押しゝてやらせた戰爭である、しつかりやれ、アメリカが後ろを見てやるといふことを言つたから始まつて居る戰爭である、隨つてイギリスは何處までもアメリカに喰下つてこれを戰爭に引入れなければ已まない。今より一月ほど前であつたか、アメリカから一向物を送つてやらない、本眞劍にお前の方で援けないならば、仕方ない、イギリスとしてはやむなくドイツと和を講じなく

てはならぬ。さういふことを世界の通信網を通じて放送した、アメリカは吃驚した、アメリカから申せば、イギリスは對獨アメリカ國防の第一線である、丁度アジアに於て蔣介石重慶政權がアジアに於けるアメリカ國防の第一線であるやうに、イギリスはアメリカ國防の第一線である、これが寢てしまつて英獨和睦してしまつてどうなるか、あの巨大なるドイツの力がアメリカにひた〳〵とその力の波を打寄せて來る、アメリカはアメリカ合衆國だけでは立つて行かれない、どうしても中アメリカ、南アメリカを一體としてゞなければ立つて行かれない。而も英獨和すればドイツの勢力は直ちに中、南米の横ツばらに及んで來る、これは大變だといふのでアメリカは物資を最近ぐつと送つた、それがこの間のアイルランド沖に於けるドイツとの海戰になつた、數百艘からなる運送船、それをイギリスの船が護送して行く所をドイッが嗅ぎつけて戰になつた、そこでフッド號を先づ沈めた、併しながらドイッは少數であるしイギリスは大艦隊を動員してドイツに當つて行つたからビスマルク號が沈められた。兎に角イギリスはアメリカを引張り込む爲に色々な手をやつて居るのである。隨つてアメリカとしては——アメリカの人民は不贊成である、心ある者は

戰爭を嫌つて居るけれども、アメリカ政府はユダヤ人の政府である、ルーズヴエルトの周邊は悉くユダヤ財閥に依つて支へられて居る、ユダヤ財閥はあの莫大なる金を有效に使用する爲に、戰爭を世界のどこかにやらせるより外ないといふ觀點に立つてこの戰爭をケシかけたのである、今となつては後に引込めない。だからアメリカは參戰する、時期の問題である。アメリカが參戰すれば三國同盟の條約に依つて日本はアメリカに對して參戰せざるを得なくなる、參戰して宜いのである、さういふ事態に今あるのでありますが、併しアメリカは日本に色々なことを近頃言ひ寄つて居る。下から出て居る、三國同盟の第三條を日本は額面通りに適用しないでその第三條の解釋に於て色をつけて呉れといふやうなことを言つて居る。日本は國際信義の上からそんなことは出來ない。併し日本はアメリカなどと戰をしたくないのだ、若しアメリカが日本と戰をするのが嫌ならドイツに向つて宣戰することを止めろといふことを日本は言つてやればよい、これは推測ですが、日本はさう出てゐると思ふのであります。

何れにしてもアメリカの參戰は近づいて居るのではないかと世間で言はれて居るのであ

りますが、さうなると所謂文字通り全世界の全面的な戰爭になるのでありまして、それだけ愉快なことにもなるが、また非常に困難にもなる、乘るか反るか、最後までの戰爭になるのであります。二十年で濟むか三十年で濟むか五十年で濟むか分らない戰爭になる、戰時が平時になつてしまふ。

一二、世界建設の理想と教育

今は戰爭だ、やがて戰爭が濟むだらうといふやうな暢氣なことを言つて居れない戰爭になるのであります。併しもうそこまで來て居ると考へて間違ひない。今度の事變は前申しましたやうに國生みの神業に翼賛する爲めの戰爭である。隨つて、世界の新秩序がどうなるかを考へないで、日本の教育を考へることは出來ない、東亞の教育といふものを考へないで日本の教育を考へることは出來ない。日本の生きた教育は、此の世界新秩序、このアジア共榮圏の建設を頭におくことなしに考へることは出來ない、吾々が青年を教育するに

しても、兒童を教育するにしても、、その教育精神は、吾々はアジア太平洋經濟圏の建設に依るアジア諸民族の解放に向つて今進んで居るのだ。それはアジアに新秩序を齎らすことであるのだ。その新秩序を齎らすことに役立つ人間を造る、さういふ任務を帶びて居るのだ、斯ういふ見地に於て子弟の教育に當らなくてはならぬ、アジアの建設を考へることは、同時に世界の建設を抜きにしては考へられない。なぜならば、アジアの建設は、所謂世界維新の一環であるからである、世界新秩序の一環としてのアジアの建設だからであります。

一三、皇國國體と現人神信仰（其一）

前に申しました大國隆正といふ人は、日本が最も困難な地位に立つて居たペルリの來た當時から日本の世界性といふことを主張して居つた人であります。今日、日本世界學の建設といふことを頻りに言ふやうになつて參りました、日本世界學の建設を眞向に振翳して

居るのは東京に於ける皇學塾であります、皇學塾の思想はドイツで學んで來た思想であります。ドイツのさういふ思想は日本から行つた思想であるのでありますが、その日本には日本が極めて最爾たる島國として殆どヨーロッパ文明から取殘されさうになつてゐたその日本國に於て、すでに、大國隆正は、日本の世界性を主張して居たのであります。大國隆正の言ふ所に從ひますと、「この世界を天つ神が造られる時に、太陽を宇宙の本とし、日本を地球の本とし、天皇を諸國王の本として造られた」かう言ふのです、「隨つて今は最爾たる東海の島國であるけれども、日本の本質が世界の表に明かになれば、諸國、諸民族悉く日本に貢を持つて來るやうになる、日本の天皇は全世界の總王になられる」といふことをその頃から言つて居るのであります。大國隆正の言ふ所に從へば「世界卽ち日本だ、日本は世界の本つ國である、諸國、諸民族は日本の枝國である、日本が幹であつて諸國は枝である」といふ、然らば何故にさういふ大膽なことを言へるかと申しますと、「日本には外國に求めて得られない所のものがある、それは萬世一系の皇室を戴いて居るといふことである、天子樣が萬々世永遠無窮に變らせ給はらぬといふことである。そのことからし

て日本には特別なる一つの宗教が生れる、特別なる倫理が生れる、特別なる教育が生れて居る」かう言ふのであります。「一體ヨーロッパの國々に傳はつて居る所のキリスト教であつても、佛教であつてもマホメット教であつても、それは一つの心理的所產である。卽ち瞑想の所產である、本來あるかないか分らない所の神を拜んで居るのである。日本に於ては具體的な神を拜んで居るのである現人神として　天皇を拜んで居るのである、なぜ天皇を現人神として拜するかと言へば、日本をお造りになり、世界をお造りになり、全人類の造主であらせられる天照大御神の生き通しの神樣であられるからである。天照大御神から眞直ぐに天津日嗣として續いて今日に至つて居る現身を供へた神樣であらせられる。現人神として國を治めて居られる、外の國では法と王とが別である、國の統治者と宗教上の統治者が別になつて居る、日本ではそれが一つである、政治上の主であり、思想上の師であり、肉身の上の親であらせられる、主師親一體であらせられる、主であり、師であり、親である、主師親を一人にてお兼ねになつて居られる現人神、その現人神たる　天皇を拜し　天皇を仰いで居る、これが世界萬國類ないことである」かういふのであります。然ら

ば外國人がこの日本の神様である　天皇にどうして歸依するかと申せば「人類は曾て皆自分の祖先神を拜んで居つたのである。神は上なり長者なりで、祖先を皆拜んで居たのである。けれども、歐洲や支那のやうな易始革命の國では自分の祖先がわからなくなつてしまつて、拜むべき祖先を見失つてしまつてゐる。さういふ憐れな民族なのである。併し人は親なしに親を求ずして一日も安心できない、吾々の生存がこの五十年の生をもつて終るものであると考へる時に淋しくて堪らなくなる、そこでその見失つた親を探し出さなくてはならぬ、探し求めた結果、思想上の神、即ち瞑想上の神を心で畫いてそれを拜んで居るのが外國の宗教である。さういふ宗教は自分の心持が變れば對象も亦變つてしまふ。即ち心理學上で言ふ感情移入作用である。だからして、こちらの感情が動けば對象も動く、キリストすら其の死ぬ時に神を見失はうとして、「神よ、父よ、何故に吾を捨て給ふか」といふ哀れな言葉を殘して居るほどである。ところが吾々の神、すめらみことは、現に在しますのである、天照大御神から眞直ぐに生き繼ぎ生き繼いで生き通しに生きて居られるすめらみことでありますから、眼のあたり拜することが出來る、人類の大親もとである神様が、

この地上に――日本國に居らつしやるといふことが分つてくれれば、諸國諸民族はこれを拜せざるを得なくなる。現にこのことを支那の紅槍會の農民達に話したところが、それでは是非日本の　天子様を拜みたいから、連れて行つておがませてくれといふことを申出したと、最近も支那から戻つた人が申して居りましたが、外國の神は造られた神、心の上に拵へ上げた神である、日本の神は造主そのものであらせられる、現人神で居らせられる、さういふ神が日本に居られるといふことが分れば、外國人は必ず拜むやうになるといふことを申して居るのであります。事實また、さういふ國體なるが故に日本人には人類同胞の感が深く從つて外國人のやうな殘忍性を帶びてゐないのである。殘忍性を帶びないといふことはその國に安んじて居られるといふことを意味する。隨つて諸國の人々が來れば必ず日本に永く住みたいと思ふやうになる、日本が武力を以て征服して各民族が日本に從いて來るといふやうな性質のものでなしに、日本の國體から輝きいづるところの倫理性に依つて世界の諸國、諸民族は從いて來ざるを得なくなる、さういふ幽契が神代の古へからちやんと日本に備はつて居るが故に、今は東海の一島國に違ひないけれども、やがて全世界の人

々これを拜するやうになり、日本の天子様が全世界の總王にならせられるといふことを大國隆正は言つて居るのであります。

一四、皇國國體と現人神信仰（其二）

このことに就いてはなほ後に申しますが、八紘一宇といふ言葉を吾々は日常使つて居ります、八紘一宇といふことは言ふまでもなく世界一家といふことである、天の下を宇とな す、世界一家といふことである。隨つてその理想が顯現すれば、世界は一つの國になり、然もそれはすめらみことの治す日の本つ國の天子様に全人類が哺まれる形に於ての世界一家である、この一家、一つの家といふ考へ方はヨーロッパには出て來ない考へ方であります。民主々義からは出て來ない、家といふのは、お父さんお母さんがあり、さうして子供があり、子供には兄弟があり、お祖父さんがありお祖母さんがあり、それがずつとひろまつて一家親類がそれに從いて居る。それが家の形である。家には必ず主人がある、家長が

ある、お父さんである。國に二君なしと言はれる、國にやはり一人の天子様が居られると同じやうに家には同じやうに一人の主人がある。家が全世界にまで擴充すれば、その時の主人は言ふまでもなく　日本の天子様であるべきであります、必ずさうなるでありませうその家の考へから言へば、今日問題になつて居る協同體とか聯盟とかいふ思想は意味をなさなくなる。家の考への特色は一つの社會に一つの中心といふことは、それが一つの生命體、生物だといふことを意味するのであります。どんな生命體にも、生命體には一つの核しか存在を許さない、核が分裂すれば二つのもの、或は四つのものに分れてしまふ、詰り一つの生命體には二つの核の存在を許さないやうに如何なる細胞でもさうでありますが、それが上位のものに結び付き、又、上位のものに結び付くといふ作用に依つてだん〳〵に出來て行く、即ち大氏、中氏、小氏、それから氏子といふ關係になり、その一ばん上に天子様が居られる、大氏の分れに中氏があり、中氏の分れに小氏があり、小氏の下に氏子が澤山ある。さういふ形で天子様に歸屬して居る、その形が生命體の形であり、それ故に日本の國家には位といふものがある、人類が平

面的に平等に並んでをるといふやうな考へ方は全く日本の思想にはない。日本人には皆それ〴〵位がある、家にはそれ〴〵分がある、萬邦をして各その所を得せしめると仰せられて居るやうに、國にも亦それ〴〵位があるのであります、東亞新秩序の建設に於て、近頃東亞聯盟、或は協同體とか色々な意見があるけれども、さういふのはいけません、さういふのは平等的、平面的國際關係を想定して居るからいけない、概念獨立國であるからいけない、獨立國にはそれ〴〵位がある。その位、價値の序列によつて排列された形がアジア一家の生命體である、それと同じやうな形に全世界がやがて一つになる時は、その一つの核を取卷いて各々の獨立國がそれ〴〵の分に應じ、位に應じて所を得る、これが卽ち世界一家八紘一宇の考へ方であります。八紘一宇は同じやうな力を供へた同じ獨立國であり、同じ我儘を言ふものが並んで存在するやうな平等な形では出來るものではない、世界一家といふのは、今言つた地位、價値の序列に於て各の獨立國がそれ〴〵の所を得て、それが一つにまとまつて一生命を形づくることであります。それが眞の皇國の姿であります。日本が今起さねばならぬ運動は、皇國運動でなくてはならぬ。吾々友達同士の間でも、それ

〴〵の序列がある、教育會なら教育會、その會員にはそれ〴〵序列があり、會長、副會長理事とか幹事といふやうに位が備はらなければ團體が纏つて行かない、それが生命體の本質である、教育會なら教育會といふものは、やはり一つの家を成して居るのである、家にならなければ、家としての秩序が立たなければ必ず分裂する、抗爭が行はれる、日本の國生み、國たらざる國を國たらしむるといふことは、この一家主義に依つて行くのであります。日本國家が現に天子樣を中心とする一つの家である、國が家である、國が家である如くアジア一家にこれを擴めて行かうとするのである。萬邦をして各その所を得せしめるといふのは世界一家の理想にそれを擴げて行くといふことを意味するのであります。茲に卽ち八紘一宇の理想がある。吾々が外來思想に依つて平等的な平面的な、さうして中心のない國家聯合といふやうなものを國際關係に考へて居つたのは皆間違ひであります。新しい世界建設の理想は、この一家主義に則つて、萬邦をして各々その所を得せしめるといふのが卽ち世界を一つの家にすることであり、八紘一宇であるのであります。かういふ意味に於て、吾々はこゝに世界建設の理想を胸にひめて教育に從つて行きたいと思ふのであります

す。」

一五、皇國の本義に眼覺めよ

今日物が足りない、生活が苦しい、闇取引がひどいと皆言つて居ります。これは全く困つたことであります、日本らしくない國内の姿であります。この日本らしくない所のこの姿はヨーロッパ流の思想が入つて居るからであります。ヨーロッパ流の物の考へ方が日本の國内にまだ澱んで居る證據であります。この闇取引、物の不足、所謂買溜め賣惜み、さういふやうな事柄を正して行く爲には、日本から外來のさういふ個人主義、自由主義、民主々義的な考へ方を一掃し去つて、日本を日本人の日本にしなければならない。さうなれば必ず今日のやうな不合理な社會狀態は跡方もなく消えて行くのであります。今日アジアに臨み、世界に臨まうとして居る、國生みの神業を翼賛する爲に全アジアに臨み、全世界に臨まうとして居る、その日本人自身が、さういふやうな哀れな狀態で過されませうか。

どうしても根本的に建直さなくてはならない、何處までも儲け主義、何處までも個人主義自分さへ宜ければ宜い、人はどうでも構はぬといふやうな考へを一掃せなければならぬ。これは明治になつてヨーロッパ思想が入つたからといふだけではない。武家政治が始まつてから、天皇御親政時代を過ぎてからは、外來思想が色々さういふ考へを植え付けて來た儒教の思想なども道德的には取柄はあります、その思想は王道であります。王道といふのは民主々義であります、近頃、王道と皇道とは同じものだ、王道の日本的適用が皇道、皇道の支那的適用が王道だといふやうな詭辨を弄するものがありますが、さういふことは大間違ひです。王道は禪讓放伐を許す所の革命の國風であります。又王道は民の心を心とする所の民主々義であります、即ち民に信望があればその人間に天これに命を下すの思想であります。それですから民主々義であり下剋上の思想であります。日本は惟神(かんなが)に神樣がお治めになつて居る國であります。智慧や才能がすめらみことの御位では斷じてないのであります。血と傳統とに依つて國を成して居る、その國の道が、即ち皇道であるのであります禪讓放伐、民主々義の王道と、すめらみことの教、一家主義の皇道といふものとを混同し

てはならないのであります。

さて日本人が日本人に還る、外來のものを排して、外來のものをもそれ〴〵の所に於てこれを利用することは構ひません、日本が主になつて、日本人に還る、總ての外來の思想を日本に於て生かしつゝ、日本固有の、皇道に立つといふことが、この混亂した國內體制を整備する根本になるのであります。かういふやうな時代には、どんな智慧のある者が出ても、どういふ偉い人が政治の局に當つても、どういふ立派な制度が出來上らうとも、それに依つて新しい國內秩序が出來上るものではない、國內秩序を作り出す所の根源は、全國民が　天皇に歸一し奉ることである。吾々の行動云爲の總てが、天子樣への御奉公にあるのだと考へる、天子樣を尊崇し奉るだけではない、天子樣を神として拜む、すめらみことと信仰、現人神信仰の境地に日本人自らがなるといふことが、それのみが今日のこのせぐくまつた亂雜な社會秩序を建直す根本動力となるのであります、日本では、だから行詰つたら何時でも元に還る、外から何か求めることに依つては決して轉身は出來ない、日本が吾々が、日常やつて居ることでも行詰まれば後に戻つて見る。なぜならば、外國の敎は神

の國を求めて居る、將來に神の國を求めて居る。極樂に行かうとし、天國に行かうとするのが、外國の敎へである。日本は初めから神の國である、だからして後へ戻れば、古に復れば、必ず正しい所に落着くのであります。ですから日本の革新は、どんな場合でも總て復古、古に還る、古に復ればそこが最も正しい神の國の姿なのである。天子樣の大御心を吾々自らの心に體するといふことになれば、今日一切の困難を脫却することが出來ると信ずるのであります。

一六、大祓の眞義

この三十日は、大祓の日であります、或は役場あたりへは內務省――神祇院から通知が來て居るかと思ひますが、昨年の十二月の大祓から神祇院でもこれを推奬して居られる、私どもは大祓を國民の間に行つて、この混亂して居る世相を一變させなければならぬといふことを神祇院の總裁に建言しまして、內務省から全國に通知して貰つたのであります。

大祓は年に二度宮中に於て行はれ、又全國の神社で行はれるのであります。

罪あらばわれを咎めよ天つ神
民はわが身の生みし子なれば

これは　明治天皇の御製であります。宮中に行はれる大祓の行事の上にこのお心もちが現はれるのであります。六月三十日、十二月三十一日であります、午後二時宮中神嘉殿に於て　主上自ら御出御になり、さうして節折の儀を行はせられる、節折の儀に續いて午後三時から大祓が行はれるのであります。その節折の儀といふのは、詳しいことは申しませんが、要するに、全國民の犯したでもあらうところのそれらの罪を　天皇陛下が御一身にお引受になり、その罪をお祓ひになるのであります。全國民が犯したでもあらう、もつと廣く言ふならば全世界の人類が犯したでもあらうそれらの罪を一身にお引受けになつて、節折の壺といふのに、御息をお吹込になり、また竹で玉體をおはかりになる行事がある。その竹を折つて祓はれ、壺の中に息をお吹込になつてお祓になる、その節折の儀に用ひられた贖物をうつして臣下の大祓になる、臣下の大祓には、親任官、勅任官、奏判任官の代

表が參列して、そこで大祓の儀が行はれる。その大祓の儀の贖物、即ちその罪穢れをうつしたものを、午後五時大川に流される、大川から海に持つて行かせてお流しになる。さういふ莊嚴な行事が來るべき六月の三十日に行はれるのであります。その日は少なくともその節折の儀の時刻、大祓の時刻どちらかに於て職場々々で全國民はその心持を體して祈念すべきであります。この大祓のお心持、大祓に現はれる大御心を身に體すれば實際左樣な罪穢れはなくなるのであります。

一七、皇業翼賛の自覺に立て（其一）

此處には女の先生達が澤山居られるが、今度女の先生で教育界を代表して翼賛會の中央協力會議に出られる木内きようさん、この人の述懷談、私が直接聽いたのではないが、他の人がさう申して居りました。吾々が日常生活、女の身で力に餘つた校長といふやうな仕事をし、家庭では幾ら勤めがあつても夫には仕へなくちやならない。なまなかなことでは

ない、體はデブ〳〵肥つて苦しくはあるし、大變なことだと言つて以前はよく愚痴をこぼしたものである。併しそんな苦しいことを吾々は一體東京市の教育に從事して居るといふやうな考へでどうして出來るであらうか、東京市の教育に自分が携はつて居るのだといふ風に以前は考へてゐた折には、非常に苦しかつたけれども、或る人からお話を聽いて、天子様の御事業に翼贊して居るのである、自分は東京市の小學校の教員であり校長であるけれども、そのこと自體は　天子様のお仕事に翼贊して居るのであると感じた時に、自分の生き甲斐ある生活をどれ位嬉しく感じたか分らぬ、それ以來全く生れ變つた清々しい氣持で一日々々の仕事に勵むことが出來るやうになつたといふことをツイ最近ですが或る人に話されたと申して居ります。夫の爲め親の爲に盡すことは軈て天子様の爲に盡して居るといふことであり、皆さんが、この靜岡縣の教育に從事して居るといふことは、この國の教育、天子様の教育事業を翼贊し奉つて居るのである、あだ疎かに考へてはならない。志太郡の教員、志太郡の教育界に働いて居るのだと考へて居る時には、あの君は怠けて居るのに校長に最員されて給料を上げて貰つた、あの人は非常に努めて居るのに校長に認められ

ないで不遇に居るといふ、さういふ卑しい見方を自づとするやうになるけれども、若しも自分のやつて居る仕事は、地位とか給料とかいふ問題ではない、天子様の教育事業、文化事業に翼贊させて頂いて居るのだといふ氣持になつたならば、さういふ氣持は出るものではないのであります。日本は、國土そのまゝ　天子様の國土であります。それも私の家、私の田圃、私の山林、私の漁場とそれらは皆私の物でありますけれども、併しながら、それは私の所有物であると同時に　天子様の物をお預りさせて戴いて居るのであります。普天の下率土の濱王土にあらずといふことなし、一切は　天子様の物であります、吾々の所有して居る物も所有權は所有權として許されてありまするけれども、その本質は　天子様の物をお預りして居るのである、財産もさうであれば土地もさうであり、又吾々のやつて居る事業も　天子様のお仕事をお預りして翼贊させて戴いて居るのである、天子様のお事業を翼贊して戴いて居るのだといふことが本當に吾々の考の中に浮んで來れば、その仕事をあだ疎かに考へることがなくなる、こんなことをして　天子様は喜んで下さるだらうか、かうすれば天子様に喜んで戴けるだらうかといふ風に吾々自らの仕事を判斷する時に

間違ひは絶對起りません、そこまで――天子様まで直ぐに持つて行けない人は、天子様は吾々の大御祖であるから、手近の自分の親を考へても宜しい、親子の關係といふものは洵に微妙なもので、世のお父さんは、社會的に言へば身持の悪い酒飲みでありましても、子供には神として現はれるものであります、「おいお前、お父さんのやうになるなよ」といふことを言ふのであります。善悪正邪は子供に對する愛の中にははつきり分つて居る。子供の前には親は理想の形で現はれて居る。だからして吾々がこの行ひをして善いか悪いかといふ判斷に迷つた時には易者などに見て貰ふ必要はない、自分のお父さんお母さんを思ひ浮べれば直ぐ思ひ付く、お父さんだつたらどうするだらうか。お母さんだつたらどうするだらうかといふことを考へる時に直ぐに正しい道が見付かるのであります。それがかういふことをやつて、お父様にお叱りを受けないだらうか、かうすればお父様が喜んで下さるだらうかと考へる所まで考へを延長すればめつたに間違つた行爲が出來なくなるものであります。西洋のお伽噺に、或る隊商の子供がをぢさんの家に世話になつて居る、自分の親は亡くなつた、自分はせつせと働いてをぢさんのやうに駱駝を自分自らで持つてその駱

駝で荷物の運べるやうに早くなりたいとその子供は思うて居つた、或る晩日の暮れ方に駱駝をひいて沙漠の道をとぼ〳〵戻つて來ると家の間近の村外れの所に來て足に躓いたものがある、取上げて見れば大枚の金子の入つて居る財布であつた。その中には色々な貴重な寶石類も入つて居た、その子はをぢさんから御寶美にお金を貰つてそれが一圓の金貨に溜るまで待つて金貨に換へてそれを帽子の廂の所に挿んでもつて居つた、それが二十枚溜れば駱駝が買へると思つて樂しんでゐるが、まだ二枚しか持つて居ない、この財布を自分の物にすれば、駱駝が三匹も五匹も買へると思つた。どうしようかと思つて惑うた。その時にその子供は、お父さんだつたらこんな場合どうするだらう、さう思ひついた時に、もういち早く交番の方に驅けて行つてこんな落し物を拾ひましたと言つて差出した。ところが落し主は既に大事な物だから交番に屆けて居つたので、その御褒美としてその財布の中に入つて居つた一割を惠んで呉れた、それは樂しい駱駝を一匹買ふに値する以上のものであつたといふ話がありますが、その話の一番尊い所は、その子供が迷つたその迷ひを解く時に、お父さんだつたらどうするだらうと思ひついた所にあるので、吾々が何かすることに

迷へばお父さんだつたらどうするだらうと考へれば間違ひはない。それが更に、天子様はこのことをどう御覧になるだらうと思うた時に間違ひは絶對にないのであります。闇取引買溜め、賣惜み、法律の違犯とかいふことは、それは社會的に見て、色々同情すべき點もありませう、大金持で私をして居る、我儘が相應にある世の中でありますから、一人二人が正しくても追付かないといふ感しがするでありませう。けれどもそこが大事な所である詰り一人二人でも正しいことをすればそこから出發して善い方に向ふのだといふ確信があれば世の中は次第に改まつて行くと思ふのであります。例へば事業家があつて、或る事業をやつて居る、その事業をこれは天子様の仕事をお預りして居るのだ、私がやつて居る仕事であるけれども私の我儘ではいかぬのだと考へた時には、その事業の成績を擧げずには居られない、田を耕すのでも、田の草を取るのもさうである。これは青人草の食べる物として神様から載いて居る。その種子、その苗が擴まつて今の農作物になつて居る、神様から下された農作物を自分達は作つて居るのであるから出來るだけよく實らさなければならないと思ふ時、草取りをするにも稲の根を柔らげるに申譯的にして濟ますわけには行かな

い、本當に稲を自分の子を愛するやうに可愛がつて育てようといふ氣になる、さうすればその作物の實りは必ず宜い、仕事に親切を盡すといふことは、それは天子様のお仕事を翼賛させて載いて居るといふ考へから湧いて出るのであります。

一八、皇業翼賛の自覺に立て（其二）

先般或る所で聞いた話でありますが、こんな風に供出米が少ないのは値が安いからだといふ人があります、それはそれもありませう、併し或る村で、だから値を上げて買上げて貰ふやうに相談しようといふ語がだん〳〵村人の間に話され、これは常會かなにかでありませう。吾々は集つて米の値上を要求しようぢやないかといふことを大多數で言つて居る所へ、或るお爺さんが、お米を値段の高い安いで作るの作らぬのといふのは可笑しいぢやないか、お米はもと神様から下さつたものぢやないか、かう言つた時に、一座ははツとした、値上などといふ筋合のものでないといふことになつたといふことを聽いたのでありま

す。お米は全く神様から下さつたものであり、天子様のものであります、それを私するといふ考へがあつてはならない、自分が作つたものだから自分が食ひ放題食つて宜いといふものではない。皆が外米を食つた、その外米をもつて來るには船に積んで持つて來なければならない、百萬トンの外米を入れるには百萬トンの船が、その米を積む爲に塞つてしまふ、さういふことを考へる時に、出來るならば瑞穗の國だから日本國民が食べる米だけは百姓として吾々の責任に於て作りませうといふ考へがなければならない。米が足りないなどといふことを百姓が手柄顔に考へたら大間違ひである、米が足りないといふことは吾々農民の恥辱だと考へなければならない、吾々が國の爲め、天子様の爲めを考へる時に——どうかするとさうした方が自分に都合が好いといふ功利心が働く、これも考へて見なければならない、吾々は天子様に一切を捧げる心になつて、天皇信仰に歸一した時には、さういふ考へは浮んで來ないけれども、普通あり來りに考へれば、國の爲になる、天子様の爲になる、天子様の爲になることがやがて身の爲になるだらうといふやうにその三番目を考へる、それが宜しくない、本當に國の爲め、天子様の爲になるのだ、といふことたけでよ

ろしい、功利心が働いてはいけない、日本の道德は、さやうな功利心を拔きにする所にある。大楠公の歌に

身の爲に君を思ふはふたごゝろ
君の爲には身をも思はじ

といふ歌がある。大國隆正の歌にも

親のため惜しむ命も君のため
國のためにはさもあらばあれ

といふ歌がある。そこまで吾々の考へが功利主義から離脱しなければならない。

ヨーロッパ文明の日本に浸潤して以來一番激しい禍を貽して居るのは功利主義であります。功利主義を蟬脫することが新しい教育の大きな立場でなければならぬと思ふのであります。功利主義の立場に立つてゐて戰爭が出來ませうか、戰場に於て、それは初めの間は本能的に後込みすることもありませうけれども、本當に戰場に行つて戰を始めれば靖國神社に祀られるのだ、戰死しても構はぬといふやうな功利心など微塵も働かない、ありの

まゝ天然自然のまゝ戰陣を張つて行く、それだから日本の兵が突貫に移ればどんな場合でも必ず勝つと皆申して居ります。睨み合つて鐵砲を撃合つて居る間は流れ彈に中つて色々死んだり、傷いたりすることはあるが、突貫に移れば、絶對日本軍は勝つと言つて居ります。無心に前進するからでありませう、而も戰死する時、すめらみこと彌榮を唱へる、天皇陛下萬歳を唱へる、さうして死ぬ、恐らくにつこと笑つて死んで行くのでありませう、その心持、至純至誠天地を貫いてこれ程尊い心はまたとないのであります。私は滿洲事變以後　天皇信仰、即ちすめらみこと信仰といふことを說いて參つてゐますが、戰死する時に　天皇陛下萬歳と唱へて死ぬ、その心持は意識するとせざるに拘らずもうそのまゝ神の心であります。實際また神であります、永遠のすめらみこと天子樣のお心に抱かれて生きるのであります、死んで生きるのであります。靖國の神に祀られる名譽、名譽といふやうな考ではいけない、事實、天子樣に抱かれて萬世無窮に生き得るのであります、生き拔くのであります、宗教の極致は永遠の生命を得るにあると言はれます、限りなき命を得るにあると言はれます、日本の兵士が　天皇陛下萬歳を叫んで死ぬといふことは即ち永遠の命

に生くることであるのであります。眞實の信仰は、生きとし生けるものみなに死なからしむることであります、日本人は、肉體に於て死んでも魂は永遠に生きて居る、かう感ずる時、靖國神社に遺族達が詣る心持も生々としてそこに現はれて來るのであります。　天皇に歸一し奉れば、この行詰つた世相も一切解決する、吾々はそこから出直さなくてはならぬ、その點に生れ變らなくてはならない、天皇信仰とは、現人神信仰であります、天照大御神から眞直ぐ續いた生き通しに生きて居られる神樣を拜することであります、大御心を身に體して生きて行くことであります、一たび　天皇信仰に徹すれば、永遠の生命に入るのであります、吾々は、爾餘の如何なる宗教をも求める必要は斷じてない。天皇信仰に徹しさへすれば、政治も經濟も教育も皆正しい地位を持つことが出來ます、政治は從來のやうな民主主義議會政治ではいけないといふことが直ぐ分つて來ます、翼賛政治、勅命奉行が政治の要諦であります。經濟は皇民、皇士、皇產の思想でなくてはならないのであります、吾々自身が皇民である、御民吾である、さうして吾々の持つて居る財產、土地、またみな天子樣の物をお預りして居るのである、お預りして居るのであるけれども、天子樣は

それを取上げようとはなさらない、その人の能力に應じてそれを活用することを　天子様は喜んでくださる、吾々が持つて居る財産を何か譯の分らないことに消費すれば　天子様は喜ばれるでありませうか、その財産を使つて國家有用の仕事をどん〳〵やつて行けば天子様は喜んで下さる、皇民、皇土、皇産、卽ちすめらみことのみたみ吾、すめらみことの土地、すめらみことの財産、すめらみことの事業、さういふ風に感ずる時、經濟問題は一切解決するのであります。教育事業は、さういふ自覺ある人間を造り出すことであります、戰場に銃を取つて戰ふ兵士だけが兵隊ではない、國民は悉く　天子様の兵隊であります、國民みな戰士である、國民みな戰士の教育を徹底することは　天皇歸一の精神に徹して初めて出來ることであります。吾々の日常生活も、天皇信仰から割出したならば吾々の日常生活の倫理が悉くそこから出て來るのであります、生活の規範は吾々日本民族に於ては　天子様にまつろひ奉ることである、一切を、天子様に捧げ奉ることに徹することである、大御心のまゝに動くことである、だん〳〵時間が經ちましたが、端折つて最後に一言申上げます。

一九、三國同盟の御詔勅のままに

日本の方向は、三國同盟の御詔勅に最も端的に明白に現はれて居ります。日獨伊三國同盟か御詔勅の御精神を吾々は今日當面の方向として最も正しく遵奉しなければならぬと思ふのであります。御詔勅は天津神諸の修理固成の御神勅、天照大御神の天壤無窮の御神勅からずつと續いて數多く出て居ますが、御詔勅は最後にお出しになつた御詔勅の中に一切の精神が含まれてあります。それは生き通しの神様のお言葉でありますから、疊みかけ、疊みかけて新しい御詔勅の中に古い御詔勅の精神が現はれて來るのであります。ですから今上陛下の御詔勅は皆讀返して遵奉しなければいけませんが、あの三國同盟の御詔勅は特に絶えず服膺して居なければならぬと思ふのであります。最後のお言葉は天壤無窮の皇運を扶翼せよ、これは色々な勅語に現はれ、教育勅語にも現はれて居るやうに皇運の扶翼であります、それが眼目であります。日本人はすめらみことの御榮光の中に生きて居るので

ある。日本人の行動所作悉くすめらみことの御榮えの爲めにあるのであります、皇運の扶翼といふことが一切の眼目である、それをはつきりと最後に仰せられて居る。最初の言葉は卽ち八紘一宇であります、「大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤輿ヲ一宇タラシムルハ實ニ皇祖皇宗ノ大訓ニシテ朕ガ夙夜眷々措カザル所ナリ」――八紘一宇の理想がはつきりと初めに言はれてある、さうしてそこに世界維新の方圖をお示しになつて居る、卽ち中程に「萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムル」といふ理想を仰せられて居るのであります。八紘一宇、皇運扶翼、さうして「萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムル」といふことを吾々は寸刻も頭から忘れてはなりません、日本全國民の規範である、行ひの規範である、而もそれを理窟で理解するばかりでなく信仰にまで高めなければいけない、繰返して申します、今事變は卽ち國生みの神業を翼賛し奉る所の事變であります、さうしてそれはまだ〳〵直ちに片付くといふ所まで行つては居りません、どんな困難が來ても此の國を護り拔く爲に今からしつかりと準備しなければなりません、精神的にも物質的にも準備しなければなりません、諸君の守られる其の職

域、持場は、卽ち精神の準備を通して物質を豐に獲得せしむるやうなお仕事であるあります。御健闘を祈ります。（拍手）

（六月六日、靜岡縣志太郡敎育會に於て）

世界戰と教育

一、全面的世界戰爭

事變が始まつて滿四年、丁度、明日から五年目に入らうとしてをります。しかるに、事變の前途はなほ容易でない。「支那事變はいつ片付くか」とよく聞かれる、が、まだなかなか片付かないといふほかはない。事變が始まつた時、私は三十年戰爭が始まつたと申しました。高島陸軍大佐は百年戰爭と言ふ論文を發表された。何れにせよ容易に片付かないといふ點では一致してをります。そこで日本としては、周到な準備をして對處しなければならぬ。こゝ一年や二年で片付くのならば、日本の國力を出し切つても宜い、十年二十年も片付かない戰爭であるなら、餘裕を存し、且つ教育に力を用ひて、來るべき事態に對する備へをしなければならぬ。日常の生活に於ても戰時卽平時の覺悟が必要である。戰爭狀態そのものが國民生活の平常である。戰爭卽生活、さう云ふ覺悟をまづ固めて掛らなくてはなりませぬ。

何故、片付かないか、大規模の世界戰爭となつた、長期戰に入つたからです。支那事變が始まつて二年、十四年の秋になつて歐洲戰爭が始まつた。アジアに於ける戰爭はアジアの新秩序を建設するところの戰爭である。謂はゞ東亞建設戰である。それと同じ性質を帶びたヨーロッパ戰爭を獨伊が一體となつてイギリスに對して始めた。イギリスと言ふより英佛に對して始めた。是は日本がアジアに於て東亞建設戰と稱してゐる如く、ドイツはヨーロッパに於けるヨーロッパ建設戰と言つてゐるのである。卽ちヨーロッパに於て新しい秩序を齎す爲めの戰爭である。アジアに於て日本が戰つてゐる戰爭も、ヨーロッパに於てドイツが戰つてゐる戰爭も、世界新秩序建設戰たる點に於て同じものである。

最近さらに獨ソ戰爭が始まつた、文字通り、世界大戰の形を整へて來ました。公然と參加しないけれども既にアメリカはイギリスに參戰してゐるのも同樣である。其の英米が又ロシアを助けると言つてゐる。卽ち英米ソ對日獨伊の爭覇戰になつたのである。食ふか食はれるかの決戰が始まつたのである。支那事變の相手方となつてゐる蔣介石は英米ソの勢力の變形であつて、土地は支那で戰はれ、人は支那人に依つて戰はれてゐるけれども、實

質は英米ソである。

かやうな形で世界が眞二つに分れて大きな戰ひを始めてゐる、中途で、平和が來ると云ふことはもうあり得ない。若しも、參加國の單なる利益の爲めの戰ひであるならば、其の國の利益が滿足さるれば部分的に解決する、けれども、今やさう云ふ單純なる戰爭ではない。支那事變の背後の勢力、英米民主主義國家群に對する、樞軸國側の戰だからであります。單なる利害の戰爭ではなく、一種の思想戰だからであります。

英米反樞軸國の指導精神は、政治的に言へば民主主義であり、思想的に言へば個人主義であり、經濟的に言へば自由主義である。一方樞軸側はこれに反してドイツの言葉で言へば全體主義、さういふやうな、權威を中心とした國家主義思想に立つてをる。個人主義に對する全體主義の戰ひである。民主主義に對する權威主義の戰である。自由主義に對する統制主義の戰である。一方は舊い世界秩序を護つて行かうとして戰つてをる、一方は新しい世界秩序を打建てようとして戰つてをる。ともに利害を超えた主義の戰ひである。思想の戰ひである。それ故に、一方の國家群が、部分的に敗けたからと言つて降伏する。それ

で片付くと云ふやうな單純な戰爭ではない。國の總力を擧げて、同志國家が互ひに手を繫ぎ、力を合せながら、其の總力を擧げて、戰さに從つてゐるのである。即ち一方が一方を捻ぢ伏せ、打倒してしまふところまで行かなければ解決しない戰ひである。無限の將來を豫想させる戰ひである。普通の戰爭ならば、戰さに敗けたら自分の國の幾何かを割いて勝つた方に渡す、さうして後を整へて次の機會を待つと云ふやうなことも出來る。勝つた方から言へば、兵隊を他の國に出してゐるのを媾和に依つて其の國から引上げて來る、復員が出來るけれども、今次の戰爭はさう云ふ復員が利かない、元へ戻ると云ふことがない。どちらが勝たうと敗けやうと、國々の姿があげて變つてしまふ、國の位地、指導精神が擴大し、或は全く消滅してしまふ。さう云ふ所まで行かなければ果てしのない戰ひである。兩方とも戰ひ疲れたから此處らで止めようではないかと云つて止められる戰ひではない。何故ならば、其の思想をまるきり一變して、お前さん達の國の言ふことが正しかつた、お前さん達の國の言つてゐることが本當の人間の道だと云ふことを悟つて、全的に一方が一方へ思想的に屈服し終るまで戰をやめない戰爭である。ところが此の事變をさう云ふやう

な深刻な意味に理解しないものが日本國内にも非常に多い。早く戰さが濟んで貰はんと困る、何時になつたら支那事變は片付くのか、何時になつたら南方進出が行はれるのか、何時になつたら日米の戰爭が始まるのか、始まつて其の結果はどうなるのかと云ふやうな、部分的な問題を摑まへて、色々な話が交されてゐるのは此の戰爭の深刻さが分らんからである。戰さが始まつて滿四年の今日、吾々は更に考へを新たにして、此の謂はゞ永遠の戰ひを戰ひ拔く決心を固めなくてはならぬのであります。

二、アメリカの獨ソ戰觀

最近アメリカから入つた情報に依ると、アメリカのウオール街、ウオール街と言へば東京の兜町のやうに、或は丸の内の如く、財閥の事務所の寄り集つてゐる町、即ち取引所とか銀行とか云ふものゝ集合してゐる街であるが、其のウオール街の人達が獨ソ戰爭に對するかういふ見透しを發表してゐる。それは、獨ソ戰爭は恐らく三月位の間にロシアの敗北

を以て終るだらう。さうすればドイツはイギリスに對して屈服しろ、降參しろと言つて和平勸告を發するだらう。イギリスは既に弱つてへと〳〵になつてゐるから、恐らくドイツの要求に對して二つ返事で屈服するだらう。さうすればアメリカは土着かずに又新しく商賣が繁昌するだらう。かう云ふやうな觀察を發表して居るのであります。此のアメリカのウォール街の事變見透し觀と、同じやうな考へが東京の、例へば大阪の本町通りとか、東京の兜町とか、さう云ふやうな經濟街で行はれてゐるのであります。所謂舊勢力、舊い秩序にもう一ぺん戻さなくてはならぬと考へてゐる連中の昔戀しさの希望的判斷としては正しくその通りでありませう。が吾々の觀るところでは、斷じてそんなに簡單に平和が來るものではないのであります。同じアメリカに於てもルーズベルトの側近、所謂ルーズベルトのブレーン・トラストの連中が、獨ソ戰爭に對する見透し觀を發表してゐるところによると、是はウォール街とはまるきり反對の考へを發表してゐるのであります。事件は容易に片付かない、成ほど獨ソ戰爭は、四月くらゐで一段落になるであらう。其の場合ドイツは、あまり深入りしないで、ウクライナの農作物と、コーカサスの石油と、新しくロシア

に占有せられることになつてゐたバルト三國、フインランド、ベッサラビア、及びポーランドの最近ロシアに取られてゐる部分、さう云ふ部分　完全に回復すると同時に、モスコーを抑へたならば、それより深入りすることなく、ぐつと今度は一回轉、イギリスの方を睨むであらう。其の時ドイツは、恐らく、もう戰を止めろ、抵抗を止めろ、ドイツに屈服しろと云ふ、所謂和平勸告をイギリスに向つて發するであらうことは明かである。併し其の時イギリスは受けつけない。屈服しない。ドイツの要求に應ずるならば無條件降伏でなくてはならぬから、アングロ・サクソンのプライドとしては、それはなし得ない、カナダに、北米合衆國に、全世界の自治領植民地に向ほ多くの同胞を持つてゐるイギリスとしては、敢然として此のヒツトラーの和平勸告を拒絶するであらう。それが又當然である。何故ならば、アメリカがイギリスを後援すると云ふことを約束した時に、チヤーチルが一札を入れてゐる。どんなことがあつても單獨で媾和はいたしませんと云ふことをアメリカに誓つてゐる。だからたとへ、イギリスが不利な地位に陷らうとも、さう云ふ勝手な眞似はイギリスとしては出來ない、假に、さう云ふやうな心を起しても、世界の戰局は終るもの

ではない、是は全く從來考へられた所謂國際戰爭としては全く性質の違つた戰爭になつてゐるのである。全體主義か個人主義かの大きなる思想戰である。統制主義か民主主義かの大きな思想戰である。國家主義か、自由主義かの大きな思想戰である。此の戰爭が、中途半端に終ればアングロ・サクソンは頭が上らなくなる。何處までもドイツのナチズムと其の指導者ヒツトラーを叩きのめすまでは戰ひ拔かなくてはならない。其の相棒であるところの日本をアジアに於ては屈服させなければならない。それだけ大きな發展性を持つてゐる戰爭であつて、決してこゝ數年のうちに結末の付くやうな戰爭ではないと云ふことをルーズベルトの知識部は言つてゐるのであります。ルーズベルトの知識部といふのは、聞く所に依ると、全アメリカの最も優れた思想家、經濟學者、政治思想家、敎育者、ありと有ゆる種類の優秀なる人物約三百人から成つてをる、世界のありと有ゆる所に配備せられてゐる情報網を分析し判斷して、ルーズベルトの參考に供してゐる所の尨大な組織である。流石に世界的な頭腦が集中せられてゐるだけに、今申したやうに、利己主義に根ざしてゐる資本家の集團であるウオール街の情勢判斷とは全く違つた判斷をしてゐるのである。是

は非常に日本人として、日本國家として注目に値する判斷であるのであります。

三、總力戰の意義（其一）

歷史的に見ると、戰爭には段々種類あります。日本で言ふならば源平藤橘の爭の如きは一國の一つの內亂の形であるからそれは國際戰爭ではない。ところが近世に入つて世界に幾つもの國際戰爭が行はれてゐる。極く手近な例を取つて見ても、アメリカの獨立戰爭とか、南北戰爭とか、或は南阿の戰爭、極く最近にはイタリーがエチオピアを遠征したやうな形の戰爭がある。さう云ふのは概ね植民地獲得の戰爭である。又最近に日本が經驗した戰爭でも日淸戰爭あり、北淸事變あり、日露戰爭がある。更に其の後に行はれた第一次世界戰爭と云ふものがある。前申しました南阿戰爭であるとか、アメリカの獨立戰爭と云ふものは、一つは植民地獲得戰爭であり、一つは本國から離れた植民地人が母國に對して獨立を挑んだ戰爭である。だから戰國時代に於ける日本の內亂、廣い意味の內亂のやうな戰

爭に過ぎない。さう云ふやうな戰爭は局部的な解決が出來る。イギリスと南アフリカとの間で話が付けばそれでお終ひになつて、世界の他の部分は何も知らぬ顏をしてゐる。獨立戰爭の如きもさうである。局地的に解決される戰爭である。日清戰爭になると是は植民地戰爭ではない。一つの大なる國際戰爭である。即ち二百年前からイギリスが植民地獲得の爲めに動き始めて、インドを征服し、支那に及んだ、阿片戰爭がそれである。此の阿片戰爭は即ち植民地戰爭である。それは今から約百年前に行はれた戰爭である。イギリスの勢力は更に東に伸びた、支那を嗾して朝鮮に侵入せしめ、日本の存在を危殆に瀕せしめるやうな行ひが現はれた、之に對して反擊を加へたのが日清戰爭である。日清戰爭はヨーロッパのアジア侵略に對する日本の最初の反擊であつた。其の後北清事變があり、それに續いて日露戰爭が起つた。日露戰爭が起つたのは日清戰爭の結末に於てヨーロッパの干涉があつた。それの清算と云ふ意味で、日露戰爭は戰はれた。是はアジア人同志の戰ひではなくて、ヨーロッパ人とアジア人との戰ひである點に於て、日清戰爭より更に大きな意味を持つた國際戰爭であり、民族戰爭であり、アジア人のヨーロッパに對する國土防衛戰爭であ

つた。此の戰爭に於て、日本はヨーロッパの大國ロシヤを打ちのめした。ヨーロッパ人は非常な驚きをなした。此のまゝ放つて置けばアジアの野蠻人がヨーロッパの文明人を叩きのめすやうな時代が來ぬとも限らないと云ふやうな、非常な恐怖に襲はれた。即ちドイツの當時の皇帝であつたところのウヰルヘルム三世が「黃禍論」を提唱して世界に警告を與へた。それほど大きなショックを全世界に及ぼした日露戰爭であつた。即ちヨーロッパ人のアジア侵入に對するアジア人の積極的防衛戰であつた。國際的な、一大人種戰爭であつた。而も優秀を誇つてをつた白人國ロシアが黃色人種日本人に完全に敗北せしめられたと云ふので非常な驚きをかもした。同時に、アジアの諸國、諸民族は此の日露戰爭の成果によつて非常に力を得たのである。支那もインドもインドネシヤも、安南、ビルマ、シヤム總てのアジア諸民族は、此の日露戰爭の日本の勝利を非常な驚きと、非常な喜びを以て歡迎した。何故ならばアジアの諸國、諸民族は長い間ヨーロッパ人に虐られて、全く白人文明が段違ひに秀れたものである、アジア人が蟲鉾立ちをしても及ばない文明だ、これによつて蹂躪せられ、思ふやうに支配せられるのは已むを得ないと云ふくらゐにあきらめきつ

てゐたところが、同じ黄色人種であり、アジア人である日本人によつて、物の見事にヨーロッパの大國が叩きつけられた。そこで、吾々も起てばやれると云ふ自信を與へられた。當時、支那の指導者であつた孫逸仙即ち孫文は、フランスにゐて日露戰爭の捷報を聽き、ヨーロッパ人が非常に駭いてゐる樣を見て、非常に喜びを感じた、早速アジアに歸つて、アジア再建に從事しなければならない、さう思つて急いで歸つて來た。其の時の感想を彼は述べて、日本と支那とはアジアの大國である、日本と支那とが手をつなげば全アジアは救はれる、日本は實にアジアの干城である。アジアは、日本の科學的文明、軍事力によつて救はれなければならない、所謂大アジアの建設は、日本を中心とすることによつて始めて可能であると言つた。

神戸に於ける大アジア主義論がそれであつたが、それほど大きな刺戟をヨーロッパ人にもアジヤ人にも與へた日露戰爭であつた。けれども、是はアメリカ大統領が仲裁に入つて所謂ポーツマス條約に依つて平和が克復したと云ふ點に於て、世界の部分戰爭であり、局地的な戰爭であつた。かやうな部分的、局地的解決の付く戰爭は、戰爭の種類から言へば

單一武力戰と言ふことが出來る、部分的解決が付く、復員が出來る。日本人が支那に行つてゐたが、平和が克復すれば、引上げて來て、元の通りになる、單一武力戰であつた。

四、總力戰の意義（其二）

ところが、先年、戰はれたところの、即ち一九一三年から一八年まで戰はれたところの第一次世界大戰はさう云ふ部分的の解決の付かない戰爭であつた。是は兩方ともへと〳〵になつてしまつて、何處からか仲裁が出ればよいと思つてをつたところが仲裁になる國もない。どうにもならないと云ふ時にドイツに食糧暴動が起り、それを切つかけに各國の指導者が寄合つて所謂ベルサイユ媾和條約を結ぶやうになつた。アメリカの大統領ウイルソンが其の平和克服の表に立つて、指導役を買つて出たけれども、アメリカの仲裁でも何でもない。アメリカ自身も戰爭に入つてをつた。日本も戰爭に入つてをつた。全體の國が何とかしなければなるまいと云ふので一時、戰爭を打切つた。其の結果、所謂ベルサイユ條

約が現はれたのであるが、其の平和條約の作り方が大變に間違つてゐた。國際聯盟と云ふ方法に依つて平和は克復したが、戰敗國であるドイツが再び起上ることの出來ないやうにしてやらうと云ふので、鐵とか石炭のある資源地域を皆聯合國側で取つてしまひ、ドイツが持つてをつたところの植民地を共同管理してしまひ、さうしてドイツの周りにある諸民族を機械的に獨立せしめ、ドイツを取卷くやうな形で新しい國を澤山に作り上げて、どんなに努力してもドイツが再び起上ることの出來ないやうにしようと云ふ配慮の下に、ドイツに非常に不利な媾和條件を要求したのである。殊に初めは、三百億マルクと云ふやうな償金を押付けて、少くも年々二十億マルクづつの償還をさせると云ふやうなことにした、そこで、幾ら働いても取られてしまふ武力を備へることも許されない、曾つて持つてをつた船は取られてしまふと云ふのでどうにもならなくなつた。其の間に、所謂ドイツ魂が蘇つて來て、其の先頭に立つたのがヒツトラーである。一九一八年に戰爭が濟んでから一九二五年まで、とも角も押し付けられた通り、稼いで〳〵稼ぎ拔いて償金の支拂ひを幾らかやつてきた。けれども、到底追付かな

いので償金の減額が段々行はれた。そこでヒツトラーは、無理に押し付けられた償金は拂はんでも宜いと云ふ國民の聲を受けて立つた。さうして償金は一切棒引き、新しいドイツ魂に依るところの新ドイツ國家、第三ドイツ帝國を作り上げると云ふことに努力して、一九三三年にヒツトラーの政權が成ると同時に、借金棒引きを宣言し、つゞいて再軍備を宣言したのである。吾々は足も切られ手も切られ、頭も縛られてどうにも動きが取れない。吾々が本當に動く爲には各々の獨立を保障するところの軍備が絕對に必要である。かくて再軍備の宣言をやつて、一九三四年から今次の戰爭に入る一九三九年まで、約六七年の間に、世界無比の强力なる軍備を拵へ上げた。かくの如く、第一次世界大戰はとも角一應鬼はついたが、其の結末から引續いて、今次のドイツの世界制覇の運動となつて現はれて來た。世界と云ふよりも、ヨーロッパ制覇の運動となつて現はれて來た。しかし、今戰はれてゐるところの、所謂世界最終戰と言はれる戰爭と、第一次世界大戰とを較べたら、是れ又雲泥の差があるのである、第一次世界大戰は、世界の各の國の兵力と云ふ兵力、軍備と云ふ軍備を悉く動員して、また三四の國は其の國力の一切を擧げて戰つた。しかも、今次

の戰爭とは餘程意味が違ふ。第一次世界戰爭はなるほど世界戰爭ではあつたが、現有力戰であつた。ところが今度の戰爭は、現有してゐるところの武力、經濟力、政治力と云ふやうなものを總動員するばかりでなく、まだ存在しないところの國の力、出來てないところの國の力、教育力までも動員するところの戰爭になつて來たのである。何となれば、此の戰爭は一方で武力戰爭を戰ひながら、又經濟戰爭をやりながら、一方では占領地域に於ける經濟建設、政治建設、文化建設をやつて行かなくてはならない戰爭である。勝つて敵の國家を滅ぼしてしまふと云ふのでなしに、勝つたあとから其の敵の國土に新しい國を作つて行くところの戰爭である。即ち建設戰と言はれる所以であるのであります。かやうな戰爭は所謂第一次世界大戰とは違つて、世界總力戰である。さうしてそれは世界新秩序建設戰である。破壞と同時に建設をやるところの總力戰であるからして、武力のみならず、政治力、經濟力、文化力、更に今後に作られるところのあらゆる可能力、國民の生殖力、是等を動員しなければならない。今後、育つて行くところの子供の體力、精神力をもなければならない。心身ともに健康な國民を將來作つて行かなくてはならない。物質的戰力を增

强する機械生産、それに必要なる科學力、技術力を作つて行かなければならない。そのためには科學教育を盛にして行かなければならない。かくて、今後出來るであらうところの戰力をも同時に動員しつゝ進んでゐるところの戰爭である。世界總力戰の意味がそこにあるのであります。

五、世界總力戰と教育戰

さう云ふ戰爭でありますから、此の戰爭の將來の發展において、勝つて勝つて勝ち拔くためには何を措いても吾々は銃後に於て教育戰を戰はなくてはならない。今日日本が、國民に要求してゐるところのものは、國民皆戰士たるべしと云ふ要求である。國民の一人々々が悉く戰士でなくてはならない。男が戰士であるばかりでなく女もまた戰士でなければならない。教育に從事してゐる者は教育戰を戰つてゐるのである。産業に從事してゐる者は産業戰を戰つてゐるのである。醫學に從事してゐる者は健康戰、厚生戰を戰つてゐるの

である。國民皆戰士、此の考へ方がはつきりと國民の頭にはいつてゐなければ、此の大きな時代、此の大きな戰爭に對處することが出來ないのであります。

今次の戰爭は、容易に終るものではない。紆餘曲折はあるけれども、全面的な世界戰爭に徐々に發展して、而も對峙してゐる國々は食ふか食はれるか、樞軸國勝つか、民主國勝つか、勝つて勝つて勝ち拔かなくては結末のつかない戰爭である。皇國日本としては、光輝あるこの傳統を永遠に生かし護るために、この豐葦原の瑞穗の國を防衛するために、勝つて勝つて勝ち拔かなくてはならぬ。神國日本を假りにも汚してはならない。皇國々民にとつては實に重大なる使命が課せられてをるのであります。

以上、申上げたところによつて世界大戰の意義がほゞ明かになつたと思ふ、現に日本は支那で戰つてゐる。支那を足場として英米勢力と戰つてをる、更に泰、佛印、ビルマ、マレー、インドネシヤ、フイリツピンと段々戰線が伸びて行かうとしてゐる、而もこれは、從來ヨーロツパ學者が規定したやうな帝國主義戰爭ではない。局地的侵略戰爭ではない。前申したやうにアジヤ新秩序建設戰である。このことは、數次の近衞聲明に現はれてゐる

やうに、一寸の土地をも要求しない。一厘の償金をも要求しない。アジアに平和を齎す爲めである。東洋永遠の平和の爲の戰ひである。現に占領地域內に生れたところの新しい政權に對しては、其の政權を育てる爲めにこちらから人を送り、機械を送るばかりでなく、金までも送つて其の建設に今從つてゐるのであります。滿洲事變以後日本が爲したところは、八紘一宇の理想實現のためであります。天津神諸の『此の漂へる國を固め成せ』と伊弉諾、伊弉冉尊に下された神勅、卽ち此の混沌亂離の世界に秩序を與へよと仰せられてある、此の漂へる國を修り理め固め成せの意味は國なきところを國たらしめ、秩序なきところに秩序を齎すことである。これが肇國の理想である。肇國以來一貫不動の理想である。今日本は、アジアの地域に於て新秩序建設戰を戰つてゐるのである。日本には古來國產みの思想がある。人を產むと云ふことは誰でも考へるが、國を產むと云ふことが日本の古代の記錄にチヤンと殘つてゐる、けれども、誰もその意味をはつきり知つてゐなかつた、今日、それが事實となつて、その國產みがアジアの天地に於て始まつてゐるのである。日本の國はさやうな形で生れて來た國である。淡路島が生れ、四國が生れ、壹岐が生れ、對島

が生れ、九洲が生れ、隱岐が生れ、佐渡が生れ、最後に本洲が生れた。今また、滿洲が生れ、蒙古が生れ、北支那が生れ、中支那が生れ、海南島が生れ、次に南支那が佛領インド支那が、タイ、ビルマ、マレーが、ヒリツピンが、インドネシヤがといふ風に段々國が生れて行く、今現に生れて行きつゝあるのであります。土地があり、人口があつても、それだけでは國ではない。土地あり、人民あり、而してそれに秩序が齎される、其處に住んでゐる人民が安穩なる生活を營むことが出來て始めて國たり得るのである。國たらざる地を國たらしめることが日本の古來の使命である。其の國產みの神業が今始まつてゐる、かう考ふべきであるのであります。日本の古代の理想に於て修理固成、國產みの神話があり、其の國產みの理想は、世界を一家の如く家族體制に導く、神武天皇の御詔勅にある「八紘一宇」の理想がそれである。八紘一宇といふのは、世界を一つの家としての秩序に導く、即ち世界一家と云ふことである。この世界一家の思想がまた明治天皇の『萬里の波濤を開拓して天下を富嶽の安きに置かむ』と示されたあの詔勅となつて現はれてをる。今上天皇陛下が三國同盟の御詔勅に、これ等古來の皇國の理想、『修理固成』『國產み』、『八紘一

宇』『波濤開拓』の思想、それ等總てを含めて「萬邦をして各其の處を得しむる」と云ふお言葉となつて現はれてゐるのであります。此の漂へる國を修理固成せよと仰せられたお言葉も、八紘を蔽ひて宇とせんと仰せられたお言葉も、萬邦をして各其の處を得しむると仰せられたお言葉も、その意味全く同じであるのであります。そこに一貫不動の理想が現はれてゐるのであります。

教育勅語の『以て天壤無窮の皇運を扶翼せよ』と仰せられてあるその目標は、やはり、この世界の修理固成であり、八紘一宇の理想實現であり、萬邦をして各其の處を得しむることである。日本國民ことに我等教育者は皇國の此の世界史的使命をはつきり把握してゐなくてはなりませぬ。

六、崩壞するベルサイユ體制

然らば世界新秩序建設の目標は如何なるところにあるか。これまで民主主義國家群によ

つて指導せられて來たアングロ・サクソン中心の文明はすでにその爛熟の域に達して崩壞に瀕してをる。而も崩壞に瀕しながらも尙ほ且つ長い間培つて來た其の基本を何處までも維持しようとする努力が行はれる。其の維持しようとする努力が最も具體的に表現せられたのがベルサイユ條約、國際聯盟であつたのである。此のベルサイユ條約に則つたところの世界秩序は、その出發に無理があつてつひに維持出來なくなつた。始め國際聯盟は永遠の世界平和を理想としたが、其の初めに於てアメリカがそれに參加しなかつた。後、日本が去り、イタリーが去り、ドイツ去り、ロシアも一寸加つて去つてしまふと云ふことになつて、英國とフランスの國家聯合の形のものが殘つただけで、世界秩序を維持する何の力も有たなくなつてしまつたのであります。

國際聯盟がなぜだめになつたか。一つには、イギリスの我がまゝと無理がありすぎたこと、一つには、その聯盟の指導精神が間違つてゐたこと、この二つの原因で壞滅してしまつたのであります。平面的な各國併立の國家聯合の形態をその指導精神としたところに誤謬があつたのであります。民主的、平面的平等觀に立脚した國家聯合論を以てしては決し

て世界の秩序を維持することは出來ぬ。畢竟、事實に反し、自然に背くからであります。世界に國は澤山あるが、決して、平等の價値を有するものではない、一等國二等國三等國四等五等と限りなく段階がある。それを平面的に結びつけても有機的一體とはならぬ。新しい世界秩序は、生命世界觀に立脚する有機的一體觀に則らなくてはならぬ。各の國家の存在價値と傳統を重視しなくてはならぬ。資源衡平を原則とする資源再分配の方策と、人種的偏見を撥撫したる新秩序が考へられなくてはならぬ。地球は全人類の母體である。從つて、ある國のみが、ある人類のみが地表を私することは許されない。この意味に於て、天然資源は全人類に解放せられなくてはならない、同時に、有無相通の原則によつて、その物資の交流が自由でなくてはならない。而も、民族の傳統と價値は一樣ではないから、その民族、その國家の世界的地位は、それぞれ差等あつて然るべきである。

萬邦をして各その處を得しむるためには、その民族、その國家の傳統と價値によつて序列され、而も、天然資源は、各國各民族に機會均等が保證されるごとき有機的一體觀がまづ確立されなければならぬ。而も、かゝる新秩序を確立し維持するためには、その中心と

なつて、邪惡を抑へ、公正を貫いて過誤なからしむる指導國または指導國家群が存在しなくてはならぬ。その指導の中心は、結局、神國日本をおいて外に求め得べくもない。萬邦をして各々其の處を得しむる指導國家は日本をおいて他にない。日本が、世界の中心になるでなければ世界は救はれない、日本が最後の勝利を得るでなければ人類の永久平和は保障せられない。して見れば日本は、全人類の救ひのために、一日も早く世界指導の王座に卽かなくはならない。日本の戰が聖戰であり、新秩序建設戰である所以である。

然らば、日本によつて齎らさるべき新秩序はいかなる秩序であるか。過去において考へられた世界秩序が失敗したのは、それが自由主義的秩序、平面的並立的秩序であつたからである。來るべき新秩序は、統制的實力的秩序、立體的積極的秩序でなくてはならぬ。而もそれは、全體として、一中心に統合せられた有機的一體觀に立脚したる萬邦各その所を得、兆民悉くその堵に安んずる秩序でなくてはならぬ。日本世界戰の意味がそこにある。皇國聖戰の意味がそこにある。日本的世界新秩序建設戰のねらひがそこにある。日本的世界新秩序建設戰の意味は、イギリス中心の個人主義を根にした自由主義、民主主義を打破

して、其の上に新しい權威主義、價値主義を立てる。平面的世界構圖を立體的構圖に書き改めるにある。

七、日本的世界觀と世界新秩序

日本的世界新秩序の狙ひは同時に日本的アジア新秩序の狙ひでもある。然るに近頃、日本人の中に東亞聯盟と云ふことを主張するものがある。日滿支を打つて一丸とする場合、日本も滿洲も支那も同樣な價値單位として、平等の原則に依つて結び付けようと云ふ、國際聯盟に似通つた考で日滿支を結ばうとする考へ方がある、がこれは間違つてをる。朝鮮人や、滿洲人や支那人には氣に入るかも知れない、日本的アジヤ新秩序の建設にはならない、日本の國體に反する。肇國の理想に反する。のみならずこれは、滿洲人のためにも、支那人のためにも結局はならない、何となれば、これは、新秩序としての意味を成さぬからである。有機的一體の統合、萬邦各その處を得、兆民その堵に安んずる自然秩序を築く

所以でないからである。自然に反する秩序は、作らうとしても作られず、無理に作ればすぐにこわれるからである。アジヤに新しい秩序を齎らすといふとも、アジアの諸國が、同じ單位、同じ力で一體になるのではない、やはり日本が中心となつて、アジアに國する諸國諸民族にそれ〴〵處を得せしめ、その堵に安んぜしむるやうな、立體的な生命的な而も自然的な日本的アジア新秩序が建設せられなくては無意味であります。併し、さやうな新秩序を齎らすにしても、又アジア全體の平和を齎らすにしても、其の手段として、まづ經濟的な實力が中心に備らなくてはなりません。

アジア全體を有機的一體に作り上げる爲めに必要な要素は、先づ以てアジア自らの自立である。アジアがヨーロッパに從屬してをつては新秩序の基礎すら立たない。結局は世界一家である、資源衡平の原則が確立し、物資流通が世界的に行はれなくてはならぬのだけれども、差當つて、アジアに新秩序を齎らすためには先づ順序としてアジアの自立が先決要件である。當面の問題としては、英米依存の狀態を改めて、アジア全體が經濟的にも政治的にも文化的にも先づヨーロッパから獨立すると云ふことが急務であります。ところが

日本國内に於てすらアングロ・サクソン的ユダヤ經濟につながつてゐるものがある、日本國内に住んでゐるけれども英米の味方であり、英米を祖國くらゐに彼等は思つてゐる。それが今日まで日本の進路をどれだけ妨げて來たか分らない。三國同盟が出來る時に六十幾回も閣議が開かれて決しなかつた原因もそこにある、最近ドイツが立上つて歐洲の新秩序戰を戰ひ始めた以上、三國同盟の精神からいへば、速かに英米と斷然手を切らなくてはならなかつたのであるが、容易にそれが切れなかつたのも畢竟日本に内應するところの勢力が巨然として存在したからである。併しながらいつまでもさう云ふ狀態を續けることは出來ない。今やアメリカは當然ドイツに向つて參戰するでありませう。さうしてイギリスの遺産を讓り受けるでありませう。イギリスがアジアの各地に殘してゐるところの遺産を讓り受けて日本に對抗して來るでありませう。

八、皇亞建設と亞細亞經濟圏

日本が眞にアジアにことを行ふ爲めには、先づ第一に經濟的獨立を獲得しなければならない。それは取りも直さず全アジアの資源を全アジア人の生活の爲めに使用すると云ふ意味においてゞある。全アジア民族の幸福增進の爲めに、全アジア民族を解放する爲めに、全アジアに新しい秩序を齎す爲めに、全アジアの資源を用ふると云ふこと、それを大東亞共榮圏の確立と言ふのであります。今や正に日本の進まんとする途は其の方向以外にはないと云ふところに來てゐるのであります。日本が今なさなくてはならない第一の仕事は、英米依存を斷乎清算して、さうしてアジアの自立を圖ると云ふことであります。今日日本で、一番欲しいものは御承知の通り石油であり、屑鐵であり、銅であります。其の他にも色々必要なものがあるけれども、石油は最も必要なものである。而も其の石油は既に英米が世界の資源を殆ど押へてゐると云ふ狀態である。そこで平和な手段で行かうとすれば拜み倒してアメリカから買ふ外はない。ところが南方資源の中には日本なり支那なりの需要を充たして十分なだけの石油資源があるのであります。それを日本は使はなくてはならない。これはすでに長きに亘つて心ある人々によつて叫びつづけられて來てゐるのでありま

す。今やその實現の段階に入つて來てゐる。屑鐵は今日製鐵上必要なものであるけれども全日本にころがつてゐるところの屑鐵を回收すれば大丈夫やつて行ける。今日銅も不足であるが、是は日本は銅の產國で昔は外國へ輸出したものである、需要量が增大して、鑛山の採掘量が殖えないので外國から買つてゐる。半分以上はアメリカから買つてゐる。それを得られなくなればどうするか、これは滿洲アルミニウムの利用その他に依つて銅の代用品を造ることが出來る。又古銅を回收することに依つてもある程度間に合はせることが出來る。急いで掘れば鑛石はある。いくらもある、心配はない。ニツケルはカナダのニツケルを是まで使つてをつたが今日は日本國內から段々出るやうになつて來てゐる。鑛紡で經營してゐる大紅山ニツケルは、純ニツケルを造り出すことは困難であるけれども、鐵と組合つたところのニツケル、卽ち含鐵ニツケルなら易々と出來る。何れは鐵その他の金屬と合金して使ふ場合が多いのだから含鐵ニツケルさへ出來ればそれでよい。この含鐵ニツケルで特殊鋼を造ればニツケルも十分國產で間に合ふ。隨つてアメリカと經濟的に斷絕しても何等心配のない域にまで達してゐます。たゞアメリカと古くから親類附合ひをしてゐる

財閥の一部はアメリカと斷絶することを非常に案じてをる、それ等の人々は商賣をするための金だと云ふので外國にお金を置いてをる。其の置いてある金が戰爭になれば押へられてしまふ。さう云ふことも影響して容易に同意しないと云ふのが過去の實情であつたのであります。然るに今や國の方向は既に定まつてしまつた。それ故に大東亞共榮圈の建設に向つて驀らに進まなくてはならないと云ふところに來てをります。以上は、日本の世界新秩序建設戰に於ける理想、位置、方向についてザット申上げたのであります。

九、世界建設戰と教育

ところで、かやうな理想を實現するために、然らば教育者は何をなさなくてはならぬかと云ふこと、それについて是から少しく申上げて見たいと思ひます。前申しましたやうに今日の日本の教育は、これまでの教育學上でいつてゐたやうな、單に各人に備つてゐる天分を存分に發揮するのだと云ふ、ペスタロッチ流の教育ではいけない。確乎たる國家的目

的に從つて教育の理想を打立てゝ行かなくてはならぬのであります。而も今日の教育事實が果して食ふか食はれるかの此の世界建設戰、世界最終戰に對處する、總力戰國家體制を强化する方法としての教育であるかどうか先づ以て此の點をはつきり認識しなくてはならない。從來教育學が述べたところに較べてはこれは全く新しいことではあるが、併しながら「以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし」と仰せられた此の御言葉にチャンと符合するものである。今日は、日本の使命遂行のために、皇運を扶翼すべく一切の人々が一切を擧げて沒頭してゐる。教育は勿論其の中心眼目となつて皇運扶翼に邁進すべく國家教育を行はねばならぬ。總力戰國家體制强化の教育は、根本的には先づ皇國日本の教育理想を確立しなければならない。皇國日本の教育理想は前申しましたやうに肇國の理想實現への準備である。これは既によゝ分つてをることゝ思ふのであります。さてその手段は何であるか。是も亦はつきりしてゐると思ふ。國民皆戰士としての教育、その徹底的實現を期するにある。現代國民の訓練は全國民をして戰士たらしめる。其の戰士は戰場の戰士ばかりを意味するのではない。諸君が教育戰士である如く、工業勞働者が工業戰士である如く、農民が

農業戰士である如く、商業に從事する者、商品の配給に從事する者も、また商業戰士である。商業戰士に依つて作られる團體は所謂商士隊であり、農業の戰士に依つて作られる團體は農士隊であり、工業に從事する勞働者の組織する團體は、工士隊であるべきであります。産業報國と云ふやうな言葉では生ぬるい。産業戰士たる任務の自覺に到達せしむることが、總力戰下の皇國日本の教育のねらひでなくてはならぬ。而もかやうな教育に對して今なほぶつ〳〵言ふ者がある。口に出さないでも心の中では、そんなことを言つても個人の心には個人の考がある、個人の生活を無視して世の中がうまく行く道理がないなどと考へてをるものがあるかも知れないが、それは間違つてゐる。明治維新以來、今日まで七十年間の教育が、全くヨーロッパの個人主義に則つてなされた爲めに、此處に並んでゐるところの諸君も吾々も、腹の底のどこかにはなほかすかに個人主義の虫の聲を聞える、吾々は、吾々自身の幸福を追求しなければならぬではないか、吾々には、吾々自身の目的がある筈ではないか。さう云ふ聲が何處からか聞えて來る、けれどもそれは間違ひである。日本國民本來の血液の中に流れてゐるところのものは、『皇御民』である、『皇民我』である、

天子様の御役に立つと云ふところに我々日本國民の存在意義がある。舶來個人主義思想に根ざすところの社會制度、教育制度、政治制度、經濟制度の一切を打破し去ることが總力戰國家體制への出發點であります。しかしながら、此の總力戰國家體制の確立は一朝一夕には出來ない。何といつても七十年も掛つて築き上げたヨーロッパ文明の糟粕がまだ到るところに澱んでをる。國民悉くの心の中、芯の髓まで、ヨーロッパの個人主義思想が泌込んでゐる。此の泌込んでゐる垢を洗ひ落すことが、新體制運動への出發點になるのであるが、これがまた容易のことではない。今日、物の統制が行はれてをる。公定物價が定まつてゐる、然るにコソ〳〵と闇相場が横行する、日本人の中に巣食ふてゐるヨーッパ魂がさうさせるのである。眞に、天皇に歸一し奉る日本本來の考へ方がこゝに喚び覺まされて來るならば、かやうな社會不安は即座に一掃される筈であります。『海行かば水漬く屍、山行かば草蒸す屍、大君の邊にこそ死なめ、顧みはせじのぞには死なじ』と久米の子等が歌つた、あの意氣込み、あの心持ちがもう一ぺん日本人の心に、魂の底に、蘇つて來れば、かやうに無狀な、耻辱的な闇相場、買だめ、賣惜みの如き社會惡は一掃される筈であります

す。而もそれが容易でないのは、如何に個人主義思想の侵潤が根深いものであるかといふことを物語つてゐる。隨つて其の侵潤の深いヨーロッパ魂を洗ひ落すために、我々は金輪際力を用ひなくてはならぬ。困難には相違ない、困難ならば困難なだけ、吾々の使命の重く深く大きいことを感じて、教育戰士たる諸君が強い覺悟と根強い努力を致さなくてはならぬのであります。

一〇、總力戰に於ける科學教育

もう一つ、なさなくてはならぬ準備は、近代戰を戰ひ拔く爲めには優れた武器が必要である。ノモンハン事件が物語つてゐる如く、優れた武器なしには大和魂も十分その力を發揮することが出來ない。

今、日本はアジア諸國諸民族に新しい魂を吹込み、新しい經濟と、新しい倫理力とを與へて、アジアの全面的解放と興隆とを圖らうとしてをる、しかしそれだけで日本の理想が

實現するのではない、更に進んで、全世界に對して新しい秩序を齎らすために、世界維新戰を其の次に戰はなくてはならない。世界維新戰に於て、日本が勝ち拔くのでなければ八紘一宇、世界一家の理想を實現することが出來ない、さう考へた時に、吾々が割合にヨーロッパに遲れてゐる科學的技術を飛躍的に進歩させると云ふこと、これに最も大きな力を致さなくてはならない。この點に關して教育者の負ふところの責仕は實に重且つ大なるものがあるのであります。先に中央協力會議において科學の普及、科學教育の振興に付て仁科、富塚兩氏から色々示唆に富んだ話があつたが、今日の學校教育に於ける科學教育は如何にも貧弱である。如何にも責任逃れである。教育者の教養が足りないからである。師範學校教育が間違つてゐるからである。

この缺陷を補ふには師範教育の根本的革新を斷行しなくてはならぬ。差當つての應急方策としては教育者の再教育が必要である。教育者の再教育は、第一には、日本精神の確乎たる把握、第二には、科學精神の發揮、科學的實力をもつと深く廣く養ふこと、言ひかへれば科學に生活させることが必要である。

教育者の再教育については部分的な規模に於ては現に到るところで行はれてをるけれども、あの程度では足りない、少なくとも代る代る六ケ月間はミッチリ呑込ませなくてはならぬ、國の方針が定まれば、それは必ずしも不可能のことではない、勿論、容易に實現出來るとは言へないけれども、しかし、教育者の團體、郡教育會なら郡教育會參加の教員諸君がかく團體を作つてをる以上は、吾々はかう思ふ、かうしてほしいと縣廳なり、文部省なりに通じ、また社會に訴へれば、其の理想の實現必ずしも不可能ではあるまい。教育者が團體を作つてかうして集つてゐる以上、何かそこに眼に見える仕事をすべきかは當然であると思ふ。上からお授かりの問題をどうしよう、かうしようと騒ぐもよいが、お互ひの身の廻りのことを考へることも時にとつては必要であるけれども、思ひを教育全體の革新の爲めに、教育者自らが輿論を作り、教育者自らが社會に訴へる、即ち己れの意志を反映をせしめるやうに努力すべきである。さうすることによつてはじめて、郡教育會、縣教育會、或は大日本教育會を作つてゐるところの意味が出て來ると思ふ。國が現に歐米依存を排撃してゐるのに、吾々がやつてゐる教育、やつてゐる學問が、依然として歐米依存では

斷じていけない。歐米依存を排して、日本獨自の立場に立つて、日本精神をはつきり把握せねばならぬ。日本科學を創始しなければならない。日本的な考へに依る日本科學の確立に依り、日本的發明、日本的技術がこゝから生れて來なければならない。外國の糟粕を嘗めてゐては、外國を敵に廻して勝つことは出來ない。ドイツは現在は同志國である。永遠に同志國であり得るか。ドイツがヨーロッパに覇權を確立し遠くアメリカを屈服せしめたと云ふやうな場合、日本の眞正面に立ちふさがつて來る力がドイツでないと誰が言ひ得よう。吾々はドイツ以上の科學力、精神力を養つて行かねばならぬ。そこに教育の眼目がなければならぬ。かう云ふ點に於て日本科學の確立、日本的科學の方法が今考へられてゐなければならぬ。

總力戰國家體制強化の爲の教育の狙ひの一つは、海外進出の精神の鼓吹である、日本は今日軍需工業が盛んになつて人手が足りないといふ。けれどもそれなら本當に足りないかと云ふと實は大に剩つてゐる。農業法が幼稚で、原始的であるから割合に手が掛る、其の爲に人手が十分でない。けれども、段々是が機械化されるやうになれば、土地の事情の許

す限り、さう云ふ仕事が進んで參れば、人は大に剩つて來る。また商業人には配給が集中的になつたために剩つて來てをる。商業人口は今日日本の全人口の一割五分くらゐに當つてゐるのであるが、所謂商業がなくなつて、次第に社會的な配給に變りつゝある。やがて全面的に變る、儲け主義の商業はなくなつて、社會的、國家的義務として配給任務が商業人に課せられることになります。さうなれば、配給が秩序立つて行はれるやうになれば、十人でやつてをつた仕事が、二人で間に合ふやうになる。八割までは商業人口が剩つて來る、是等の人達を再訓練する、年齢の關係、過去の生活環境の關係で、轉業不能の人も多少はあらうが、若い、潑剌たる人達は、新しい精神と、新しい教育を施すことによつて、海外進出、海外事業の經營、新たに生れた國々に渡つて其處の農民指導者になり、商工指導者なりになつて働き得るやうになる、從つて教育はこれ等海外進出を志す人々の精神的鼓舞を行ふと同時に、それに適するやうな性格を養ひ、それに適するやうな學問的素養を得させると云ふことが、必要であります。

教育理想の確立、國民皆戰士精神の徹底、同時に個人主義の清算、皇國民たる意識の强

化、教育手段としての科學的技術的教育、海外進出の精神的鼓舞と云ふやうなことが、今日の教育上の中心課題である。前申しましたやうに、教育者は姑息であつてはならない。銃後に於ける教育戰士である。教育戰を戰つてゐる以上は、其の間に感じたことは力を併せ、心を合せて社會にも反映させ、上司にもそれを示して、それの實現に協力しなければならぬ。

一一、無限戰爭と教育者の責務

最後に、此の事變は容易に片付かない。世界最終戰であり、世界總力戰である。而も日本は最後まで勝ち拔かなくてはならない。最後まで勝ち拔くことが、日本國民に與へられた使命である。使命遂行の爲めには、最後まで日本が勝ち拔かなくてはならない、日本が世界の指導的地位に立たなくてはならない。萬邦をして各々其の處を得しめなければならない。

天皇陛下も仰せられてあるやうに、「萬邦をして各其の處を得しめ、兆民をして悉く其の堵に安んぜしむるは曩古の大業にして前途甚だ遼遠なり」と仰せられてあります。

「前途甚だ遼遠なり」容易ではない。容易でなければないだけ間に合はせのことをやつてはいけない。根本的に國民の精神的態度を改めて掛らなくてはならない。さうすることが今日、教育者に課せられてある任務である。此の點を考へる時に吾々は、全く是まで考へてをつたところとは別な考へ方に自づと立たせられるのであります。是は此の間靜岡縣に行つても話したことですが、教育者は寄るとさはると話合ふことは概ね人の身の上話である。あの人は給料が良くなつたとか、あの人は地位が上つたとか、あの人は校長さんや視學さんにどう云ふ風に可愛がられたとか、今のやうな狀態では吾々は生活が苦しい、とかさう云ふやうな自分の身の上話、人の身の上話が最も教育者の關心事であり、國の爲めに天子樣の爲に考へると云ふやうなことには非常に遠い。教育者の大部分が神經衰弱に罹つてゐる。

我々は教育戰士である、教育戰は將兵のやつてゐる武力戰と同じやうに、國の教育事業

に携つてをるのである。掘下げて言へば、天子樣の教育事業を翼賛させて戴いてゐるのである。かう考へる時、神經衰弱的な、人の出世を羨むと云ふやうなことによつて日を暮して居られようか、我々の仕事は直ちに　天子樣の聖業につながつてゐるのである。かうすれば　天子樣に喜んで戴けるだらう、かうしては　天子樣に御叱りを蒙るかも知れない、かう考へることが大切である。

今度の戰爭は果てしのない戰爭である、何時まで續くか分らない、かう申すと、諸君の中には或は落膽される方があるかも知れませぬ。或は諸君の身内の人で戰さに行つてをられる人もありませうし、戰死された方もありませう、併し此の戰さが續くと云ふことは決して悪いことばかりを意味しませぬ、戰さが續くと云ふは、同時に日本の大なる發展を約束することでもある。歴史始まつて以來、未曾有の困難な時代ではある。同時に歴史始まつて以來の、非常に慶ばしい時代、國家興隆の氣運に棹さしてゐる時代である。とめどもなく發展する時代に出會してゐるのである。而も其の仕事はアジアを救ひ世界を救ふための仕事である。日本の力が其の爲めに段々伸びて行きつゝあるのである。最も慶ばしい時

代に遭遇してゐるのであります。困難が深ければ深いだけ、歡喜も益々高く大きいことを感ずる。今日は困難な時代であると同時に、慶ばしい時代である。此の大きな時代、萬葉の歌人が歌つた「みたみわれ、生けるしるしあり天地の、榮ゆる御代に遭へらく思へば」のそれにもまして日本國民としての光榮を感ずる時代である。苦しい、非常に苦しいけれども、之を耐へ忍び、切拔け、突破して行くところに、歡喜と榮光が待つてゐるのであります。

長い行程の中には水溜りもあれば、崖崩れもあつて、思ふやうに進み得ないこともあるが、全體として見れば、望み多き世界に一歩々々踏入りつゝあるのが日本の現狀である。氣を墮さずに、寧ろ喜び勇んで此の艱難を突破して行かうではありませんか。

（七月六日　於千葉市教育會館）

教育翼賛に就て

一、容易ならぬ戰爭

時局柄、政治問題について、立入つた話をしては相成らぬことになつて居るので、或は靴を隔てゝ痒きを搔くが如き感があるか知れぬが、それは已むを得ません。本日お話しようと思ふ事柄は、此處に出てゐる題目にぴつたり合ふか合はないかは判りませんが、今度の戰爭は容易ならぬ戰爭だといふことを初めにお話申上げて、次に、先般中央協力會議に於て現はれました教育文化に關する諸問題がどういふ風に展開されたかといふことを御紹介申上げ、その次に現代の教育はどういふ方向へ進んで行かなくてはならぬかといふことを申上げようと思ひます。

二、アメリカは何時參戰するか

今、世界戰爭に於て問題になつてゐる問題の焦點は、アメリカがドイツに對して何時參戰するかといふことであります。種々な情報を綜合して見ますと、來月の中旬から下旬にかけて參戰するのではないかと考へられて居ります。アメリカが參戰する爲には色々な要件が必要でありませうが、第一には船舶を動員するといふことが必要であります。少くも二百萬トン乃至二百五十萬トンの船舶を動員しなければ實際的に對獨參戰までは進めないと見てゐるのであります。而も今から二十日程前から毎日民間所有の船舶を動員してゐるのであります。一日平均五萬トン位づつを動員してゐると申しますから、もう既に百數十萬トンは準備してゐる、隨つてその關係から言ふと二十日頃にはその所要の船舶を動員するのではないかといふ風に見られて居ります。アメリが日本に對して包圍態勢をとつて來てゐることは新聞紙上で諸君御承知の通りであります。ハワイ、ミツドウエー、ウエークグアム、マニラ、シンガポールといふ幹線、それからハワイ、オーストラリヤ、それからオーストラリヤのポードダーウイン、それから表南洋、それからシンガポールといふ南廻りの線、それから一方はアリューシアン群島を傳はつて來る北廻り線、北廻り、南廻り、

中央の幹線とかう三つの路から日本進擊の態勢を整へて居ります。無數の珊瑚礁の島、アメリカがコントロールし得るその地域には、悉くこれを飛行基地のやうな形に構築してゐる、殊にフイリツピンに對しては最も嚴重なる防備を施して、フイリツピンは幾つかの島からなつて居りますが、その島々を殆んどトーチカの如く裝うてゐるといふことであります。最近には蘭印の政廳に對して要求を致して飛行基地を相當に設置することの許しを得たといふことも報ぜられて居ります。さういふ風に日本に對する包圍陣をずつと完成しつゝ來て居りますと同時に、ハワイに進駐してゐるアメリカの軍艦は間を置いてぽち〳〵と太西洋の方に廻はしてゐるのであります。ハワイの眞珠灣（パール・ハーバー）に進駐して居つた米國の大艦隊は、今日では大半、太西洋の方へ廻つたらうと言はれて居ります。包圍態勢は實質的にはそれ程でない、專ら威嚇だといふ見方もあります、包圍態勢を以て威嚇しながら一方所要の兵力を大西洋に廻はす、さういふやうな構へで來てゐることを見ると、今のアメリカ國内の商船徵發の事實と相俟つてアメリカの對獨參戰近きにありといふ判斷に到達し得るのであります。

三、アメリカの國内諸事情が參戰を阻む

然らばアメリカはどんな形で參戰するか、既にアイスランドを根據地として進駐してゐる、さうして既に商船を軍艦でコンヴオイ（護送）してゐるといふやうなことも薄々傳はつてゐる、少くも哨戒はやつてゐる、アメリカからイギリスへ物を運んで行く通路に見張船を出してゐる――軍艦で見張をしてゐるといふ所までは行つてゐる、實質的の參戰はすでにやつてゐるのである。この上大上段に、ドイツに對して宣戰を布告して參戰するか、さういふ形式的なことは抜きにして、實質的な參戰をするか、どちらであるかはそれは一寸まだはつきりして居らぬ。またアメリカの國内の事情を調べて見ますと、容易ならぬ困難がある、參戰せざるを得ない狀態にひつぱられながら、尙且つ思ひ切つて參戰し得ないのではないかといふ見方も成立つのであります。既に屢々報ぜられたので御承知でもあらうと思ひますが、昨年の暮以來、アメリカ國内には勞働者の同盟罷業が起つて居ります。

製鐵事業にも、鐵道事業にも、また火藥工場の如き軍需工場にも、交通事業の上にも、その他の凡ゆる方面の職場に於て大きなストライキが繰返されて居ります。これはアメリカの參戰を防止する目的のストライキではないかと見られて居ります。表面は、時間の短縮とか賃銀の增額とかいふやうな個人的な理由でやつてゐるのだと言はれて居りますが、併しアメリカには澤山に外國人が居ります。殊にドイツの謂はゆる第五部隊といふものが到る處に居りますから、同盟罷業といふことととの連關に於ていろ〳〵アメリカの產業を破壞するやうな動きのあることは言ふまでもないのであります。昨年の暮迫つて起つた事件の中には火藥工場の爆破で、アメリカの火藥製造の大半を擔當してをる大工場が一夜の中に灰になつてしまつたといふやうな事實もありまして、相當に面喰つてゐる。今度のヨーロッパ戰爭は、もとを糺せばアメリカが仕掛けてやらした戰爭である。隨つて最初からアメリカはイギリスを援けなければならぬ約束にある、それだから獨英戰爭の始まつた直後にアメリカは――昨年、卽ち昭和十五年の暮までには相當の物資をイギリスに送り得るといふことを宣言して居りましたが、後になつて國内に色々な事情が起つた爲に、來年の三月

にならなければ送れない、それも滿足には送れない、本式にイギリスを援助出來得るのは昭和十六年の暮頃からであらうといふやうなことを後になつて聲明のし直しをやつてゐるのであります。

そんな風でイギリスはアメリカを頼りにしてゐるが、アメリカとしては十分に援けられないといふのが實狀であります。先般、と申しましても二月ちよつと前でありますが、ドイツとイギリスが休戰するかも知れぬといふことが世界の通信網の上に現はれた、それはドイツの副總理のヘスの失踪事件、この事件の直後にさういふことが現はれた、これはイギリス筋の放送であつたらしい、詰りアメリカがイギリスを餘り援けないならもうイギリスはドイツと和平をやるといふやうな、詰りやけくそを起す、寢てしまふ、どうでもなれといふ態度に出るかも知らぬといふことをイギリスから通信網を利用して世界に放送したものらしい、それで、アメリカもあはてゝ、急速になけなしの軍需品食料品を掻き集め、大船團を仕立てゝイギリスに送り始めた、それがイギリス近くに着いた、アイスランドとグリーンランドの沖に掛つた時にイギリスの軍艦がそれを護衛した、それを突止めてドイ

ツの軍艦が急航してこれをやつつけたといふことがありました、それが例のフツド號の撃沈であり、フツド號が撃沈されたので大慌てに慌てゝその近邊にある軍艦を狩り集めてドイツの軍艦を追廻はして遂にビスマルク號を撃沈したといふことがありました。あの時實は、大量なものを送つて居つた、半分位は多分海中の藻屑になつたのでありませうが、イギリスの要求から言へば、それでもまだまだ非常に足りない、アメリカの方から言へば、そんな風にして物を送るのが精一ぱいで、それだけ送らうと思へばアメリカ自身の國防上の支障を來す程度のものまで送つてゐると思はれる、そんな風で、アメリカもイギリスを援けると聲明はしながら實質的には容易に援けられない事情にある、それは國内に生産設備は相應にあるが、長年失業者を澤山に出して荒廢に歸せしめて居つた遊休工場の再建だから、時間が掛つて容易に生産の增强が出來ないといふのが實際のやうである、近頃は參戰反對の大衆投票など餘りやらなくなつてしまつたけれども、國民の八割九割までは參戰反對だといふことは決まつてゐる、政府の威壓で嫌應なしにひつぱつて行かうとしてゐるらしい。アメリカから來た情報や、最近歸つた人や色々の人の話を綜合するのに、ルーズ

ヴェルト大統領及びその周圍といふものは――大統領その人はユダヤ人でありませんけれども大統領のブレーン・トラストは大方ユダヤ人であります、ルーズヴェルト夫人もユダヤ系の人でありますが、從つてアメリカ政府の現在はユダヤ人によつて支へられてゐる、今度の戰爭の起りもそこに源がある、あり餘る資金を稼がせるためには他國と戰はせるに限るといふユダヤ財閥の思惑にヨーロッパが支配されてゐるのであります。最近アメリカの農民層、勞働者層の中にはユダヤ人的ブレーン・トラストによつて支へられてゐるアメリカ政府の政策を快く思はない連中がだん〳〵殖えて來てゐる、御承知の通りアメリカには日本の移民がカリフオルニア州などには非常に多いのでありますが、此處はアメリカの穀物倉と申しますか農業地帶であります。このアメリカの農業地帶に散在する日本の移民達はいざとなつた場合にどうなるか、案じて居るのでありませう、併しながら相當に長い間築いた地盤であるから、これらの人々を呼び戻さうとしても呼び戻せないといふ狀態にあるし、呼び戻さないでも向ふで何とか途を開くであらう、勿論自分自ら向ふへ移り住んだものはさう多くない、第二世、第三世になると、日本魂は血液の中に流れてゐるが、ア

メリカの風俗習慣の中に育つてゐるから、隨つてアメリカ人との交際も深く、ですから、まア引戻さなくともむやみに危害を加へられるやうなことはあるまい、と見てゐる向が多いやうであります。とにかく、その地域では、農民層に、反政府的な熱度が高まつてゐるといふことである。それでアメリカの事情によく通じた人は一致してアメリカが參戰すればアメリカは大變なことになりますぞ、といふことをよく申します。それは併しどうなるか判らぬが、詰り二分されるといふ、さうして勞働者や農民が結束して政府の政策に反對するやうなことになると、例へば一九一九年に於けるロシヤの如き場面を呈して、共產化してしまふといふ危險が多分にある、日本人は、非常にアメリカを恐れる、恐れるといふことは準備を嚴重にする意味で宜いことだが、必要以上にアメリカを恐れる傾向がある。併し大したものではないと思ふのです、まア鐵の產額とか、石油の產額とか、或は銅の產額とか、さういふものを拾ひ上げてみると、成るほど大變なものだ、或は棉花の出來高などを見ても大變なものだ、大變な出來高だといふやうに統計上は考へられるが、國が大きいだけに、また物をザツに使つてゐるだけに澤山に出來ても外に廻はす餘力といふものは

さうあるものではない、物が多く出來ると言つて外國へそれを持出すといふことはやはり容易なことではない。それにアメリカは、自由主義、個人主義の國でありますから政府の號令一下立どころに一切が一つの方向へ向つて進み得るといふやうな、日本の如き立派な體制とは違つて居ります。かういふ點からもアメリカには多分に弱味があるのであります。アメリカは若し參戰すれば數年を出でずしてロシヤの二の舞ひ、共産化するだらうといふことは殆んど世界の批評家が一致する意見である所を見ましても、大して恐るゝほどのものではないと思ひます。

四、獨ソ戰爭と對英上陸作戰

そこでヨーロッパの戰爭の狀態でありますが、今朝の新聞にもありました通り、ドイツは大體最初計畫した豫定通りに進擊を續け、勝利を博して行つて居ります、今暫くは占領地の整理に力を注ぐといふやうなことも書いてありましたが、大體に於て九月一ぱいか或

は十月の中旬頃までにはヨーロッパロシアの戰線は片づくといふのがこれまた世界の批評家の一致する見方であります。その上ロシヤがどうなるか、ロシヤとドイツの關係がどんな風になるか、短期戰で和するか、長期戰になるか、このことについては世界の批評家も區々の意見に別れてゐるやうでありますが、今日の戰爭の要素から致して短期戰で片付くといふことは先づ豫想されないのではないか、一定の所まで進めたらドイツとしても深入はしないであらう、ドイツに必要である所のウクライナの穀物、コーカサスの石油といふものがドイツの自由になるといふ所まで押詰め得れば、それで一應そこに對陣する形で、やはり長期戰に入るのではないか、といふのが一般の見方のやうであります。勿論よく傳へられたドイツの英本土上陸作戰を返す刄でやるかどうか、それも、時と場合によりけりで、今から判斷を許しません。ドイツの外務大臣リッベントロップの如きは、日本人がよくドイツは何時、上陸作戰をやるのかといふことを聽くのに對して、そんなことは判らない、それはヒトラー總統の胸三寸にある、吾々の窺ひ知る所ではない、ところで反問するが、そんなことを聽いて一體何になる、と怒るさうであります。上陸作戰は何時やるかと

いふやうなことは判りませんけれども、上陸作戰をやらない限りドイツの對英戰爭は結末に達しないといふこともはつきりしてゐる、假にドイツが英本土上陸作戰に成功しても、ドイツは英本國に長く兵を駐めて其處に止まるといふやうなことはしないだらうと一般に言はれて居ります。假に英政府がカナダに移るなり、濠洲に移るなりするといふことがあつたとして、それで片付くかといふとさうも行かない、その場合には、アメリカが、世界中のイギリスの遺産の相續をやるであらう、アメリカとイギリスは一體のものになる、アメリカはイギリスの遺産相續をやつて、イギリスが全世界に持つてゐる植民地なり根據地なりといふものを利用して世界戰に積極的に乘出して來るだらうといふのが、これまた一般の見方になつてゐるやうであります。さうなつて來ますと、戰爭は長期に亘るでありませう。

五、大規模長期戰必至の世界戰局

私は支那事變が始まつた時、これは大變な戰爭になつた、三十年戰爭が始まつた、といふことを申したのであります、ある實業雜誌などにも私の意見が發表されてありますが、高島大佐などは、百年戰爭だと申して居ります。恐らくこの戰爭の結末がつくには、三十年、五十年、百年とかゝるでありませう、さうなつて來れば、この戰爭は何時片付くであらうといふやうな豫想はつきません、戰時が卽ち平時になるのであります、戰時卽ち平時といふことになるのであります。今日のやうなこの息づまるやうな息苦しい臨戰態勢をとつたまゝで建設が進められる、さういふ形になるのであります。來年もこの通り、再來年もこの通り、その次の年もこの通りでありまして、戰爭が收まつてまた有頂天の景氣が出るなどといふやうなことはまづありません。

以上、ざつと申しましたが、さて、諸君が聽かんとするアジア太平洋に關する、或はアジア共榮圈に關する、さういふ現實的な國策問題に對しては、今一切お話することが出來ません。そこで日本は、といふ風に申上げたいのでありますけれども、今は申上げかねる物足りないけれども我慢して貰ふより外ありません。

六、全面世界戰の世界史的意義

今度の戰爭は確かに百年戰爭であります、さうして石原莞爾中將などが言つて居られるやうに世界最終戰であるといふ見方も成立ちませう、また一般に今日言はれてゐる所の總力戰である。大規模長期の總力戰であるといふことも言へるでありませう、總力戰であるといふ意味は、單に軍人が戰さをするばかりでない、戰線にゐる者が戰さをするばかりでない、銃後にゐる者も戰さに從事してゐるのである、詰り政治、思想、文化、經濟、教育の關係者一切を擧げて戰爭に列つてゐる、國防軍事といふやうな特殊的な題目に於て戰爭に列なつてをる意味ではない、國を擧げての戰ひである、一切の國力を賭しての戰ひである。政治、思想、文化、經濟の一切を擧げて戰に臨んでゐる、かういふ見方が總力戰であるのであります。それでもなほ十分に總力戰の意味は言ひ現はせない、ある總力戰研究者の一群の人々の見解に從へば、戰爭は單一武力戰といふ形に行はれた戰爭がある、ジンギ

ス汗戰爭とか、ナポレオン戰爭とか、或は日清戰爭、日露戰爭とか、或は南阿戰爭とか、南北獨立戰爭とか、最近のイタリアとエチオピアの戰爭であるとかいふ類のものはみな單一武力戰であります。併し第一次世界大戰の如きは、單一武力戰ではなくして總動員戰爭である、國力の殆んど全部を擧げ盡して活動致した、アメリカや日本やアジアの諸國は遠隔參戰であつたために國力の全部を盡さなかつたといふだけである、主要メンバーであつたドイツ、フランス、イギリス、ロシヤ、イタリアといふやうな國々はその殆んど國力を擧げて戰爭に熱中した、擧げ盡した、國民生活の八十パーセントから九十五パーセントまでは戰爭であつたのであります。細かく言へば、戰爭せぬ部分が殆どないといふ程の大戰であつた、けれども、今日の所謂總力戰とは違つてゐました。一切の國力を動員しての戰爭であつたけれども、今日の本格的全世界戰爭そのものに比してはまだ裕りがあつた、といふのは、前のアメリカの大統領のウイルソンが乘込んで行つて何とか始末を付け得たのであります。即ちヴェルサイユ條約といふものが出來たのであります、さうしてアメリカの大統領の發言權といふものが相當にドイツの無條件降伏に對する媾和に影響を持ち得た

のであります。ところが今度の世界戰爭はさういふ仲裁に立つといふ國は勿論ないのであります、また立つべき筋合のものでもないのであります。

第一の點は、戰爭の動機が、世界新秩序建設をやるのだといふ日本及びドイツ、イタリア、謂はゆる樞軸側の戰爭の動機が世界の建直しにある、戰爭によつて、イギリス流の舊秩序を破壞して此の地上に新しい秩序を齎らすといふ、最高の目的を掲げてゐる戰爭である、フランスは既に滅びたけれども、初めは、英佛側の建前は、それにアメリカの加はつての建前は、民主々義を擁護する、全體主義ドイツの横暴を挫いて民主々義國家群を擁護するといふことが、これに敵對する英米舊秩序派の旗印であるのであります。即ち世界觀の相違が、その根本動機となつてをるのであるから、新秩序派勝つか、舊秩序派勝つか、どちらかが勝ち拔くまで、戰爭は止まらない、各の國家はその國の利害によつて戰つてゐるのではない、利害以上の理想建成のために戰つてゐるのである、世界建直しをやるかやらぬかの戰である。就中、皇國日本は、神武天皇の御詔勅に現はれてゐる御精神、八紘一宇の實現、世界一家の理想實現のために戰つてをるのである。世界を一つの家にするのだ

といふ理想を掲げて戰つてゐる以上、その理想實現の見透しのつくまでは戰爭を止めることは出來ません。だからこの戰爭は五年や十年で片付かない、三十年、五十年、百年と經たなければ解決出來ないと見なければならないのであります。

もう一つの點は、從來の戰爭は戰爭のしつぱなしで占領地域が荒廢に歸してゐても放つて置いて、媾和になれば、兵を自國內に引上げるといふことが出來た、今度の戰爭は復員のない戰爭である。戰さに若い者が出て行つた、戰爭がすんだらみな國に戻つて來て、また安穩な生活が送れるといふやうな戰爭ではなく、行つたら行つたきり、そこに新しい國土を建設して行く戰爭である。一方、戰爭であると同時に、一方建設である。かういふ意味を持つてゐるのであります。ドイツで言ふならばドイツの周邊にある或はバルカンとかウクライナとか、或はポーランドとか、或は沿岸バルト三國とかいふものをまた新しく建てゝ行く戰爭である。本國と新地域との間の人的交流は絶えず行はれませう、國內と現地との間に交流は行はれませう、行はれませうけれども、誰かがそこに居て、建設して行かなければならぬといふ戰爭である、復員のない戰爭である、單一武力戰ならば、その國が

参つたと言へば、戰勝國はその國を引上げる、戰敗國は戰敗國といふ何か名を負はされて何か條件をつけられながらまた營々と建設をやつて行く、その國の國民自身が建設をやつて行く總力戰、全面的世界戰はさういふやうな戰爭ではない、ドイツはどしどし擴がつて行く、日本はつぎつぎ擴つて行く、擴つて行く所に新しい國土を建設して行く、さういふ戰爭である。

日本の古に、國生みがあつた、伊弉諾、伊弉冉尊の國生み——一番初めに淡路島が生れた、その次に伊豫の二名島、今の四國が生れた、その次に伊岐島が生れた、その次に隱岐の島が生れた、その次に筑紫島、卽ち九州が生れた、次に佐渡島が生れた、次に對島が生れた、最後に豐秋津島、卽ち日本々土が生れた、合せて八つ、八つの島から成つてをるから大八島國だと言つた、その國生みが、今始まつてゐる、國を生む——生むといふことはお母さんが子供を產むことになぞらへていふのである、始めて聞くと、變に聽えるけれども、國を生むといふ考は、全然ないものが出て來るのではなく、國土があり、人民がある、けれども、國をなしてゐない、國としての秩序のない國がある、その國を國に仕上げると

いふのが國生みである、國土があり、人民がある、けれども國としての秩序が出來てゐない、その國に秩序を齎らすといふのが國生みである。今、日本の戰つてゐる戰ひは、この國生みの神業が行はれてゐるのである。聖戰と言はれ、建設戰であるといはれる所以である、聖戰である、その國の人民を虐げはしない、建設戰であるから武力戰が終つてもなほあとに新しい秩序を建てるまでは止まらなくてはならぬ。これ故に長く續く、新しい秩序を齎らす、さういふ責任を負うてゐる戰爭である、東亞新秩序の建設、大東亞共榮圈の確立、さういふやうな言葉が使はれるのは當然であり、更に進んで八紘一宇の理想實現まで行かなくてはならぬ、世界新秩序の建設、世界一家の理想を實現するところまで行かなくてはならぬ、そこに、總力戰の、全面的世界戰の根本義があるのであります。

七、武力戰であり教育戰である

この戰爭はさういふ風に、謂はゞ無限戰爭である、果てしない戰爭であるといふことが

納得出來るならば、同時に吾々は、それだから、教育事業が最も大切である、日本の理想この漂へる世界を固成せよと言はれてある。日本の理想を實現して行く爲には、この戰爭には、勝つて勝つて勝ちぬかなければならぬ、全世界に新しい秩序を齎らすまで前進しなければならぬ、而もそれは三十年、五十年、百年とかゝる戰爭であるとするならば、力を出し切つてしまつては駄目、のびきつてしまつては駄目、中途で、くたばつては駄目である。どうしても背後に大きな力を作り上げて行かなければならない。教育はその次の時代を背負つてゐるのである、その意味に於て、この戰爭が總力戰であればあるだけ、教育といふものに大きな力を注がなくちやならぬ、かういふことになるのであります。來年一年がんばれば濟むのだと言ふやうな戰爭ならば、學校など空ッぽにしてしまつて皆出て行つてやつつけて引上げて來れば、一年位どうだつて宜いだらうといふこともあるけれども、さうではない、無限戰爭なのだから、足元を一日は一日、一刻は一刻、しつかり蹈みしめて前進しなくてはならぬと、かういふことになるのであります。以上は時局の推移と百年戰爭といふやうな第一項目について申上げたのであります。

八、中央協力會議の教育論議

さて、この間、東京に於て開かれた中央協力會議に現はれた教育問題、それを今、振返つて見たいと思ふのであります。中央協力會議には一般思想問題と、教育問題と、それに藝術の問題と、この三つの問題が現はれましたが、最も多かつたのは教育問題で、而も思想に關する問題も、藝術に關する問題も、廣い意味から申せばやはり教育の問題の範疇に入るものである。

九、大規模の修史事業を起せ

思想一般に關する大きな問題として取上げられたのは、日本の歴史といふものは、儒教佛教等の輸入以後の思想によつて作られた極めて小さな日本しか現はれて居らぬ、日本と

いふものはそんなちつぽけなものではなくて、古代日本は全世界に君臨して居つた、さういふ時代があつた、全世界に日本のすめらみことが君臨せられて居つた時代の精神を含めた歴史に書き變へなければならぬ、小さな日本しか歴史に於て教へてないから、大陸に進出し、海洋に進出したりすることを何か帝國主義的な惡いことでもしてゐるかのやうに日本自身が考へるのである、本當の日本は、全世界なのである。世界卽日本、日本卽世界であつたのである。その心持を歴史の上にはつきりと現はす爲に、德川光圀公が大日本史編纂の修史事業を起したそれにも優るやうな、大規模な一大修史事業を起さなくてはならぬといふ、さういふ意見であります。さうでせう、あの伊弉諾尊が、筑紫の日向の橘の小門の阿波岐原に禊ぎされた時に、最後にお生れになつた三貴子、卽ち天照大御神、月讀命、須佐之男命の三貴子が生れられた、理想神が生れられた、生み生みて、生みの終に、三人の貴子を得たと仰せられた、その三人の貴子に對してそれ〴〵語り分けをせられた神勅があります、天照大御神に對しては、自ら頸に掛けて居られた天ツ御統珠の玉の緒もゆらに取りゆらかして——詰り幾つも珠を緒に通して繋いだ頸飾り、その頸飾りを取つて天照大

御神に授けられ掛けられ、さうして「汝が命は高天原を知らせ」と仰しやり、月讀命には「汝が命は夜之食國を知らせ」と仰しやり、須佐之男命に對しては「汝が命は海原を知らせ」といふ風に仰せられた、順佐之男命は、海原を知らすのは嫌だと、少しごねられたのでありますが、この語り分けの神勅に於ける海原といふのは、今日の謂はゆる太平洋の周邊、その中に含まつてゐる所の島々を意味してゐたのであります。今日問題になつてゐる南洋諸地方は勿論その範圍内に入つてゐた、また月讀命に對して「汝が命は夜之食國を知らせ」と仰せられたのは、卽ちアジア大陸を指して居られたのであります、夜之食國といふのは前私が申しました國にして國を成してゐない、國土があり、人民はあるけれども、國家としての秩序を成してゐない地を言ふのである、夜之食國の食國といふのは、材料の國、食糧の國、原料の國といふことになるのです。それほど悠大な規模に於て世界統治の洪範が古へにちやんと定まつてゐる、その大きな規模の日本史が隱されてしまつて、小日本、小さな島國としての日本が現はされてゐるに過ぎぬやうな日本歴史では國民教育上面白くない、これをもつと雄大な規模を盛つた所の日本史に改めなければならぬといふ主張

であつたのであります。これは一昨日、運營委員會で取上げることになつて、內閣及び文部省にその通りして欲しいといふことを申出ることになつて居ります。

一〇、入學試驗問題（內申書問題）

學校教育の範圍に關する教育の問題については、今日の試驗地獄から兒童を救はなければならぬといふことが問題になりました。この地方はどうでありますか、中等學校の入學試驗などで苦しまれるやうなことはないかも判らぬが、併し恐らくさう樂でもないだらうと思はれます。一世の風潮でありますから樂ぢやないだらうと思ひますが、協力會議で話しあつたことは新聞紙などに、ちよい〳〵興味的に扱はれて眞相を穿つて居りませんでした、本會議に於ても、委員會に於ても、相當に熱心に討議せられました。文部省からも各係りが皆出て來て、それに對して色々意見も申述べられたのでありますが、提案者は色々な形で色々に論ぜられたのでありますが、結局まだ實施してから二年にしかならない制度を

今變へるといふことになると、親達に不安の念を起させるから、餘りそれを荒立てゝ欲しくないといふのが菊地文部次官の意見でありました。それは尤もだからさういふ風にしませうといふことにしたのでありますけれども、併し委員の中には、安部能成氏とか、或は田中穗積氏とか、或は小泉信三氏とかいふやうな教育審議會の委員もあり、隨つて內申制度を決めた時の教育審議會の心持なども段々述べられましたが、內申制度が、必ずしも、最上の制度、最善の制度だと思つたのではない、併しこの儘にして置いたら試驗地獄の爲に幼い者の天性を害つてしまふから何とかしなければならない、それには內申制度のやうなものを取る他ないだらうといふことで、次善策としてあれを採つたのであるから、あれ以上の良策があればそれに越したことはないのだといふやうな意見も出ましたが、何しろ東京市では父兄の間で非常に問題になり、到る處へ投書が來た、現役の教員の側としては兒玉九十氏などは、菊地寛氏の意見の中には教員を侮辱したやう點がある。內申制度が當にならぬといふやうなことになると、教員は、嘘つきだといふやうなことになる。それは國家風教上甚だ宜しくないから、取消されたいといふやうな意見を強く教育者の側を代表

して述べられた。それに對して菊地氏は、それは大變な誤解である、自分は社會各層の人間の中で學校の教員を一番信用する、學校の教員以外の者はもつと惡いと實は思つてゐるのだ、たゞ現在のやうな內申制度であるならば教員が誘惑せられる、羊をして狼たらしむる、だからいけないと言つてゐるのだといふ話があり、教員を侮辱してゐるといふやうなことはないといふことも明かになりました。また菊地氏は抽籤制度といふやうな方法を必ずしも自分は固執しない、良い方法があれば結構だといふので、話を荒立てることなしにすみましたが、この問題は、今後、文部省に於ても研究するといふことになつて居ります し、また實際家も研究せねばならぬ問題であります。どうしたら宜いかといふ問題に對しては、元のやうに試驗するがよいといふやうな考へもあるが、これは同意者が割合に少ないやうであります。抽籤は、併しながら餘り僥倖をねらつて天才を葬るといふ傾向があるから宜しくない、詰り前の通り試驗を復活する、或は籤引にする、或は內申制度をもつと改善してさういふやうな惡弊を除くといふ、さういふ發言と、その他に國民學校を八年制にした以上は六年生から中等學校へ入ることはどうか、中學を三年、女學校を三年にして

八年制を布いた以上は徹底して八年間國民學校にすべての兒童を入れるべきだ、中途から中等學校へ入るといふやうなことはいけない。これは富山縣あたりの協力會議でも盛んに論議されたとかで、決議になつて、それを持つて來てゐたのであります、全面的完璧の八年制度を速に實施して、中等學校へ六年了れば入るといふやうなことを止める、さうすれば四割場所が空く、その中等學校の空いた場所を利用して入學者を多くとるといふことにすれば、志望者の全部を收容し得る筈だ、かういふのであります。

もう一つ、東京で、大體一致した意見のやうになつてゐるのは、學區制の採用、これは御地などでは問題にならぬことかも知れませぬが、東京で、五倍七倍と入學者が殺到するにも拘らず、試驗が終つてしまふと中等學校へ入らなかつた入學志望者といふものは百人に七八人しかない、或は五人位しかないかも知れぬ、詰り翌年廻しは、折角中等學校へ入らうと思つたが入れないといふものは一人もない、何處かへ收まつてしまふ、たゞ評判の好い學校に入れたいといふので殺到するに過ぎないのである。だから學校をもう少し增設して、この區域に住んでゐるものはこの學校にしかいけないといふやうにすれば、おゝい

ふ競爭も起らないだらう、競爭も起らねば弊も少ないだらう、學區制の實施といふことが大體宜いではないかと言はれて居ります。

一一、教員の待遇問題

次に問題になつたのは教員の待遇の問題であります、これは物質的方面と精神的方面と兩面からの主張がありました、精神方面からの主張は一體社會の教員に對する眼が非常に間違つてゐる。併しそれには、教員の側にも反省の餘地がないとは言へない。自らもつと高く矜恃しなければいかん、それは勿論であるが、併し社會の教員を見る眼は甚だ宜しくない、戰死者の校葬などの時にその學校長が村會議員の後に燒香したりするやうなことは宜しくない。どんな場合でも、學校長は村長、町長の次に位する、席次が如何なる場合にも町長、村長の次に列座するといふことが社會的の習慣になるやうにしなければいかん、自分の教へ子が靖國の神になつて還つて來てゐるのに、附けたりの狀態で燒香しなければ

ならぬといふことは後進子第の教育上甚だ憂慮すべきだといふやうな意見も出まして滿座皆もつともだといふやうに考へたのであります。尤も文部省に於てもだん〳〵待遇問題は考へてゐて、近頃は國民學校長、或は訓導に對する奏任待遇などもだん〳〵多くする方針を執つて來てゐるやうであります。そこに闕はされた輿論は文部省が直後に發表した程度のものではない、國民學校長は人物次第では國務大臣とも並ぶべきほどの地位がたまには與へられなければいかん、かういふのです。たとへば岡山縣の或る町村長會の會長である岡崎勉氏が大政翼贊會が出來た時分に、その準備委員になつた、まア大臣級の人と肩を並べて町村長が委員になつたといふやうに、或る優れた國民學校長は大臣、大將にも並ぶべき地位が與へられてこそはじめて教員の奮發心、向上心も起るのぢやないかといふやうな意見もあつたのであります。

それから物質上の待遇に於ては、これは元の文部次官だつた、武部君が熱心に主張された、ドイツの小學校の教員の初任給は年額四千四百マルクださうでありますが、最近の調べだと言つて居ります、詰りこれを爲替關係でかりに換算して見ましたが、大體八十四五

圓になるのではないかと思ひます。今の物價なり、今の社會の情勢から申して、師範學校出身者の初任給が七十圓乃至七十五圓位の所が當然ではあるまいか、尤も高等學校や專門學校を出てゐる者も最初七十圓といふ低物價政策上釘付の制度を執つて居る關係上、七十五圓、八十圓は無理だとしても、七十圓位の所に持つて行きたい氣が誰もして居つたやうであります。何時までも釘付では困るから、だん〳〵に上げて行かなければならぬが、この間色々議會の議員などの骨折で一率一體に十圓增額といふことが實施されるやうになつてから、まア幾らか愁眉を開いてゐる、併し文部省がそれで責任遁れしたやうな風に考へちやいかん、もつと高い所を考へを進めなければならぬといふ風な意見であつたのであります。それと聯關して今日の教員の教養の問題、師範學校の問題が問題になりました。師範學校は當然專門學校にしなくてはいかん、殊に八年制の國民學校になつた以上は、現在の師範學校の教育程度では滿足な教育が出來る筈がない、速かに師範學校を專門學校にせよといふやうな意見がありました、これも上通することに致しましたが、吾々も十年、十五年前から師範學校は專門學校にしなければならぬといふことを申してゐるので、準備さ

へ整へば、これも實現するでありませう。

一二、中等學校に於ける外國語の問題

それから中等學校に英語、――廣く言へば外國語の教育をする必要がない、かういふ意見、これは私の意見であつたのでありますが、私は文化教育の方の委員長になつたものですから、自分で自分の主張が出來ないやうな立場になつてしまつたので、餘り强くも主張しませんでした、だん〳〵に輿論を作つて行きたい、その理由とする所は、忘れ易くて役に立たない、それから今日では、それが文化的にも生活的にも必要がない、難かしく健康を害する、近眼などはその爲になることが多い、それから言葉から來る思想的感化が大いに、戒むべきだ、若し英語を廢すれば中等學校の過程を五分の一縮めることが出來る、一箇年少なく濟ますことが出來る。その縮めた時間をそのまゝ科學教育と歷史教育にふりむければ、教育の效果が著しく上るだらう、英語の教師が失職するといふ問題は、今日では

言ふに足らない、一定の再教育によつて他の學科を受持たせるやうにすれば教員不足の折から寧ろ助かるであらう、或は宣傳文化の盛んな時代であるから、よく話でも出來る人ならば外國通信事業、或は防諜事業などに活躍すれば、それこそ大いに働き甲斐があるだらうといふやうな主張で、大體これといふ反對はありませんでした、たゞ一擧に廢するといふことは何だから隨意科位にしてはどうかといふやうな意見がありました、實際、行はれるなら隨意科でも宜いけれども、隨意科といふのは實行出來ない、隨意科としたら、あれは英語をやつてない、あれは英語をやつてゐる、といふので、社會的評價が違つて來る、役に立たなくてもやりたがるといふ傾向になる、禁酒は出來るが、節酒はなか〳〵出來ない、煙草一箱喫ふ人が半箱で濟ませることは出來ない、禁煙なら出來る中途半端の節煙は出來ない、それと同じで、隨意科といふのは事實行はれない、隨意科をやる代りに、何處か別の機關で、英語の天才を持つてゐる者には、課外に學び得るやうな制度をとれば宜しい、隨意科がいけないといふのは實科高等女學校の失敗でも判つてゐる、實科高等女學校と高等女學校を並べて置くと、實科では何となく氣がひけるといふので、普通の高等女學

校ばかり繁昌することになる、隨意科にするとこれと同じになるからいけない、だから英語は廢す、その代り天才は別に他の學校で勉強出來るやうな途を立てれば宜い、さういふやうなことであつた。

一三、科學教育振興の問題

それから最も時間の費されたのは科學教育の振興に關する問題でありました、科學教育の振興については、細かく分けると、吾々の生活の環境を科學的に整理することが必要だといふことが一つ、それから個性に適應するやうな教育方法を執れば、自然、科學教育を盛んにすることになるといふのが一つ、それから科學技術教育を授ける學校をもつと多くすれば科學教育が盛んになる、さういふやうなことが主として問題になりました、實際の方法としては、科學的技術者が今日の總力戰體制に必要であるから、國家目的を遂行する爲に、差當つて必要である、さういふ風な必要を滿す爲には、國民教育の時代に於て、幼

い頃から科學的教養を高めて置かないと、急に學校施設をしたからと言つて、必要な科學者、或は技術者を得ることは困難である、素地を作つておく必要がある、かういふのであります。今日、工業技術者は非常に不足してをる、少なくとも三倍乃至四倍位にしないと總力戰體制を充備することが出來ない、隨つて、工業學校、高等工業學校、或は工業大學といふやうな施設を、二倍若しくは三倍位にしなくてはならぬが、さうすることに先立つて、先づ國民學校、中等學校に於て、素地を作る方向を狙つて行かなくてはならぬ、また社會的にもさういふ科學的な環境を作らなくてはならぬ、それの實施の方法として富塚博士から色々細かな話がありました。

一寸紹介しますと、日本人は概ね科學的教養が足りない、爲に、精密に見る習慣がついて居ない、また創造力、或は企畫力といふものがどうも足りない、他のことはいざ知らず外國人に比べて科學とか技術とかいふ方面に力が足りない。結局、科學知識の貧困によつて總力戰體制準備に非常な缺陷が生じつゝあるやうに思はれる、而もそれは學校教育だけに責任を負はす譯に行かない、國民全般に對する、科學的雰圍氣を作るといふことが大切

だ。卽ち科學的な資材、或は科學的な社會施設、科學的な博物館といふやうなものが到るところになくてはならない。日本人は科學的天分がないわけではないから、さうなれば、萬人持つて生れた天分が科學的に生きて來る、さうなつてくれば、日本人の素質が悪いのではないから、科學的な仕事にどしどし從事し得るやうになる、日本の教育は、今では、學校に子供を預けてしまひさへすれば、教育はすべて學校でやつて呉れる、家ではそつとして置いても大丈夫だといふことになつてをる、そんな呑氣な考が父兄にあるのは宜しくない、門前の小僧習はぬ經を讀む式の教育が大切だ、門前の小僧習はぬ經を讀むといふやうに、見眞似聽き眞似で色々なことの教へられるやうに心がけることが必要である、家庭そのものが、科學的に整理されてゐるといふことが大切だ、門前の小僧式教育を發揮した い、總ての現業機關を博物館化する、たとへば、商店の飾窓の如きも、科學的にこれを陳列すれば忽ち科學教場になる、一つの博物館になる、物の產地がちやんと記してある、これは何と何で造つたものだといふことが飾窓の——例へば國民服なら國民服、これはシルク・ウール、絹と交ぜてある、シルク・ウールは滿洲大豆から出來るものだ、滿洲大豆は

年產額がこれ位、こんなことに使はれるといふやうなことが一寸傍に記してあると、それだけで餘ほど勉强になる、人間は暇のない時はさうでないが、暇のある時は、ブラ〳〵と飾窓を眺めてまはつて樂しむものだ、今では、値段を見て廻はるだけで欲をそそる以外一向收穫がない、これを科學的に整理するだけでも、大きな仕事ではないか、藥品の包裝などもつと科學的に包裝紙を利用することも出來れば、鉛筆といふやうなものでも、大體鉛筆の軸木といふものは北海道のトド松が一番良いのだといふやうなことなどを知らない、また鉛筆の芯になつてゐるものは何で作られて居るか、どうして作られるか、その工程も知らない、さういふことでは心細い、鉛筆を持てばそのものの生產的內容が解るやうな施設が出來さうなものだ、それから一體、日本では、何かやつたことの研究記錄が少な過ぎる、育兒の記錄といふものを各人が備へて行くといふ習慣をつければ、これは教育上非常に役に立つが、さういふ研究記錄を保存する、さういふ習慣が乏しい。汽車の中の廣告もさることながら、廣告でなしに、汽車自身が設備する所の博物館的記載が科學教育上非常に有效だと思ふ、汽車の中、電車の中が博物館であるといふ風に利用して欲しい、雜誌な

ども、婦人雜誌、文藝雜誌といふやうなもので、科學的趣味を知らず識らず授けるやうな排列の仕方はある筈だ、雜誌などは當然科學的常識に利用して宜いではないか、それから鍛錬とか、或は禊ぎとかいふことが流行るけれど、その鍛錬禊ぎがでたらめにやられては困る、水被りは宜いが熱のあるものでもやつたら癒るといふやうなことで、非科學的に水被りなどやつても鍛錬になるものでないから、鍛錬とか禊ぎとかいふことが唱へられると同時に、一方には、それが科學的に統制されることが必要ではないか、人間の能力には限りがある、努力する努力するといふだけではいけない、何處まで努力したら宜いものであるか、此處まで努力してもその爲に明日差支へないかといふやうな、さういふ能率增進的な考へ方が、凡ての事業に入つて來なければならぬのではないか、教員など非常に仕事が殖ゑて過勞するといふことを近頃言はれてゐるが、それを科學的に分析して見るとやらないでも宜いやうなことを一生懸命やつてゐる（笑聲）まア七割位は棒を引いても宜いやうなことを頻りにやつてゐるといふのは、餘り非科學的なやり方ぢやないかといふやうなことがその提案者から言はれて居つたのであります、以上第二の問題、即ち中央協力會議に

現はれた教育問題を御參考までに御紹介申上げたのであります。次には、教育革新に關する諸方策を概略申上げて見たいと思ひます。

一四、教育革新と教育の理想（其一）

教育革新に關する諸方策について、時間のあるだけお話申上げたいと思ひます。前申しましたやうに、今日の日本は謂はゆる臨戰態勢、全く戰時體制であるのであります。戰時即平時、平時即戰時の考に立つて教育施設をやつて行かなくてはならぬ、この戰爭といふことが、直ちに片付くといふやうな見込のものならば考へはまた自ら違ふけれども、長期戰である、三十年戰爭、五十年、百年戰爭であるといふことを考へる時に、どうしても戰時即平時の考へに立たなければならぬ、さうして一切を擧げて國防强化に集中しなければならぬ、かういふことになつてゐるのであります、國防教育と申しましても、それが單に兵器を造るとか、身體の達者な兵隊を教育するとかいふことだけでは足りないのでありま

す。兵器を造るにしても、兵器の材料について考へなければならぬ、その兵器を造る技術について考へなければならない、體も丈夫に出來た、戰さ道具も出來たとしても、その戰力を最も有效に働かせる爲には精神が根本である、つまり、日本國民の心の持ち方といふものを根本的に陶冶して行かなくてはならぬ、如何なる事業と雖も、國民精神の陶冶といふことがやはり中心にならなくてはならぬ、前申しましたやうに、歷史教育の問題、日本人の氣位の問題、さういふやうな點も、この際考へ直して行かなくちやならぬのであります。併しかういふ方面はいろいろ講習會、講演會等に於ても、强調されて居りますから、改めてこゝで申上げる程のこともないと思ひます。即ち教育理想については教育の御勅語があります。また軍人に賜はりたる御勅語もあります。この度三國同盟の時に賜はつた詔勅もあります。隨つて大方の方針、即ち教育理想は何處に置くべきか、日本人をどういふ方向へ育てゝ行くべきかといふ目途は既に立つてゐるのでありますから、改めて教育理想をくど〳〵と說きはしませんが、一つ非常に大事な點は眞實に日本精神がまだよく國民の間に徹底してゐないといふ點であります。外國の文化——佛教、儒教、キリスト教を通じ

て受け入れた日本としましては、日本の本當の姿が長らく見失はれて來た、もつと本質的に日本の姿を把握しなくちやならぬといふ點について、少しく言葉を費したいと思ふのであります。

一五、教育革新と教育の理想（其二）

これも中央協力會議の國體問題、國民思想問題の第一部で、問題になつたのでありますが、信仰の問題であります。佛教と神道が協力會議で爭つたといふやうなことを新聞などで面白半分に書きましたけれど、これはさういふやうな宗派爭ひといふやうな問題でなくして、國民精神陶冶に關する根本の問題であるのであります。詰り靖國神社に神として祀らるゝ所の戰死者の英靈が村とか町とか縣とかいふ公の場所で合同葬こが行はれるといふ公式の葬祭が行はれるといふ時に、その葬祭の仕方を今なほ佛式で營む所がちよい〳〵ある、これは宜しくない、戰場で　天皇陛下萬歳を唱へて喜んで死んで行つた英靈の葬祭を

國禮國式によらないで、佛式によるといふことは間違つてゐる、これは當然國式に改めなければならない、國式は卽ち神式であるといふやうな主張が主張されたのであります。縣とか町とかの葬祭ばかりでなく、横須賀鎭守府の海軍軍人の合同葬祭に於てすら、やはり佛式によつて營まれた事實がある、横須賀鎭守府では、海軍軍人の合同葬祭に當つて最初は神式でこれをやつた、神式の葬祭をする爲に、神主に來て貰つた所が、よい神主が來なんだそのわけは、官國幣社以上の神官は、葬祭に參列しないことになつてゐる、明治十五年の內務省達しによつてさうなつてゐるので、官國幣社以上の社の神官は立會ふことが出來ぬ、縣社鄕社以下の神官が立會ふことになるから、見窄らしい、それで、折角の合同葬祭をやるのに、さういふ低い神官では物足らぬ、不用意にお坊さんを招んで來た、かういふのでありまして、考への至らぬ所からさうなつたのでありませうが、さういふことになるにはなる理由がある、若し官國幣社以上の神官に來て貰つて、例へば鎌倉八幡宮の官司、さういふ人に來て貰ふことが出來れば立派な葬祭になる、それには、內務省達しを廢止しなくてはならぬ、これは、考へて見ると、明治の初めに排佛棄釋の運動があつて、それが

外國との關係で、キリスト教の排斥が出來なくなつた、外國の壓迫で、キリスト教の布教を認めるやうなことになり、キリスト教を認めるならば、佛教の布教も認めぬわけには行かぬ、かくして、佛教の勢力がだんだん盛返して來たのですが、その餘勢が逆つて明治十五年に神道は教導職ではない、教導職でないから葬祭に立會つてはいけない、併し、縣社以下鄕社の神官が葬祭に立會ふことは差支ないといふ法令となつて現はれた譯なのであります。これはもう數年前から神職會議などでは、問題にして來て居つたのでありますが、それが今度、中央協力會議で採上げられて問題になつたのであります。そこで葬祭を神式にやられると、佛教は影が薄くなるといふので反對が現れて色々さういふ動きが今起つてゐる風でありますが、何れにしても「大日本は神國なり」と北畠親房卿が言はれてゐるやうに、神の國であり、また神の國に生れ、神の國で死に、神になつて行くといふのが日本人の最初からの運命で、外國の宗教は個人の道德修養の上には參考になるけれども、日本の本來の精神といふものとは相容れない點があるのであります。殊に今日の如く、八紘一宇の理想の實現に邁進してゐる場合に於ては、どうしても神國日本の理想をはつきりさせ

る爲に吾々は深くこゝに考へを致さなくてはならぬ。

然らば明治初年に一旦起つた皇道興隆の運動が何故下火になつたか、何故にキリスト教や佛教やの布教を認めなくてはならなくなつたか、明治の初年には、謂はゆる古道復興の運動が熾烈であつた、諸事、神武建國の古に復すといふことが維新の皇謨であつたのですから、當然、佛教とかキリスト教とかいふやうなものは排斥しなければならなかつたのであります。殊に德川時代には公式の宗教が佛教と定つて居ましたから、尙更これを排擊するといふやうな形に出たのであります。ところが、維新當時は、まだ日本の力の足りない時で、邪宗門禁制の札を立てたのを見て、外國の公使團からねじこまれたのであります、吾々の國で信じてゐる所の宗教を彼此言はれるやうでは、交際することは出來ない、邪宗門の禁制の制札は撤廢して貰ひたいといふやうな談判を受けた、それに、長崎の浦上村にキリスト教を信奉する三百何十人かの人々が結束して宗門改めに應じなかつた、私はキリスト教を信じないでは居られないといふことで、何處までも反抗した、これを牢屋に打ち込んだ、これを聽き込んだ外國の公使團がまた政府に乘込んで、これだけ信じてゐる宗徒

をかういふやうな扱ひをするのは天理人道に悖る、早く解放してやりなさい、といふやうな風でいろいろと干渉して來た、さういふことが重り重つて、折角、教則三條を立てゝ、國體信仰に歸一せしむべく起されてゐた皇道興隆の運動といふものが、蹉跌してしまつたのでありますそ。れでその運動の中心だつた大教院といふものも、遂に明治八年になつて廢止になつて、それと同時にキリスト教の布教を國内で許すといふことになり、キリスト教を許すならば、佛教も許さなければならぬといふことで、佛教も許すといふことになつて、明治初年に於ける信仰統一運動といふものは破れたのであります。併しながら、これは國内の問題といふよりも外國の壓迫によつて破れたのでありまして、今日のこの日本の發展興隆の時代に於ては、どうしても皇道興隆の運動を徹底させなければならぬといふ傾向が著しく今現はれて來てゐるのであります。これは今後何れはさういふ方向を執るであらうが、教育界に於ても、このことは考へて置かなくてはならぬ問題だと思ふのであります。外來の宗教、佛教にしても、キリスト教にしても、マホメット教にしても、これらの宗教は、民族鬪爭の結果、魂の隱れ家としての心の親を見失つた人々の間から起つた

宗教であります。然るに日本には嚴然として思想信仰の中心がある。大御親がある、祖先がある、祖先の志を繼いで吾々の發展があるといふ考へ方が日本に一貫してゐる、「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」とある、萬世一系の天皇のしろしめしたまふ國である。天津日嗣の御位に立たせ給ふ　天皇陛下こそ萬民の精神上の親であらせられる、日本國をお肇めになつた天照大御神御直統の現人神として君臨してゐらせられる、天照大御神の生き通しの御姿を現人神たる　天皇陛下を拜することの出來る我等皇國國民と致しましは、現人神すめらみことを拜する外、別に信仰の對象のあるべき筈はないのであります。あれば即ち二心であります。日本國民は生神樣に御仕へ申してゐる、生神樣の御教への下に、生神樣の御爲に、身も心もみな捧げてゐる、この儼然たる事實、この事實の確信に立つことが日本人の根本自覺であり、日本人の根本信仰であるべきであります。それならばなぜ、外國の宗教が親を見失つた國に生れたのであるか、何れの民族と雖も、初發時代に於ては、祖先を崇拜する習慣があつたのである、けれども、民族移動と爭亂とを長い間繰返す中に、自分の祖先が判らなくなつた、判らなくなるのみならず、その民族の祖先の國

と現實の自分の國とが敵味方になるといふやうなことが屢々繰返されて來た、支那で言ふならば、支那は所謂禪讓放伐の國である、長くても三四百年、短くては二百年以下で國が變つてゐる、變れば自分の親達が敵として戰つて來たその君主に自分が仕へなくてはならぬといふやうな破目になる、だから支那は、革命の國である、禪讓放伐の國である、忠と孝とが一致しない。萬世一系の日本、天壤無窮の日本に於ては、忠孝は一本であるといふことは言へるが、外國の國柄は支那のみならずヨーロッパの諸國と雖も殆んど悉く忠孝一本といふやうなことが成立たない、隨つて、今言つた現人神、生神樣といふものがゐらつしやらない、けれども、人間は、自分一代、この生身の五十年、六十年を暮しさへすれば宜いといふやうには考へられない存在である、靜かに考へれば、何か魂の安息所、據りどころがなければならない、永遠に生きてゐたいといふ希望がある、永遠に生きる爲には、その無窮の自分の親先祖といふものを立てゝ、そこを自分の永遠の心の住ひとするといふことがなければ安心が出來ない、そこで、自分が生存するのは何か眼には見えないけれども神樣があつて自分を生存せしめて居られるのであらう。自分の存在意義はその神樣或は

佛樣によつて保障せられてゐるものであらうといふやうな考へになつた時に稍々安心が出來る、さういふやうな意味で、外國には神佛信仰が起つて來た、詰り個人一代限りといふ考へでは滿足が出來ない、またどんな苦しみに會つても耐へ忍ぶといふやうな勇猛心も出て來ない、そこで、神樣に仕へるといふ考へが起つて來た、その考を生かすために心の中に神の存在を描くやうになつた、これが外國の神である。而もその神は、事實あるかないか判らない、瞑想上の所產である、外國の神、現實にさういふ神とか佛とかいふものがあるのではなく、心の上でさういふ神佛があるといふ風に考へてをるにすぎない、ところが日本に於ては、さういふことなしに現に眼に見える現實の神樣がこゝにをられる、それを拜する、その神樣の爲に命も捨てる、財も捧げる、敢て厭はない、といふ所にこの現神（あきつかみ）信仰の思想が成立つて來てゐるのであります。

海行かば　水漬くかばね　山行かば草むすかばね
大皇の　邊にこそ死なめ　かへりみはせじ

と久米の子等が詠つたのは、すめらみこと絕對信賴、絕對信仰の姿であります。このすめ

らみこと絶對信仰の思想が、日本精神の根柢になつて初めて民族國家としての日本の倫理も哲學も生れて來るのであります、政治、教育、國防、經濟悉くこの一點から流れ出で、この一點に歸一する所に日本の本質がある、この現神信仰の理想を外にして日本精神があるとは考へられない、また考へてはならない、現神信仰の理想は、即ち天照大御神その儘の生き通しの神樣が即ち　天皇陛下であらせられるといふ、かういふ信仰であります、天照大御神が肉體的には血統的に傳統せられる、精神的には歴史的に傳統せられて、さうして今日の皇御位にお即きになつてゐられる、　天皇陛下があらせられるのである、それ故に天照大御神樣を拜む心を移して御歴代の天子樣を拜む心となり、また現神としての　天皇陛下を拜む心となる、かういふ風に考へて來る時に、日本には最も現實的な、また最も切實な精神の出發點歸着點がある、それだから日本人には櫻信印、即ち潔よく散つて少しも顧みないといふ潔よい思想があり、また菊信仰――、菊の如く萬木が枯れても尙ほ花がその莖について離れないといふやうな忠節、信順の考へ方も湧いて來る、と同時に、日本人はヨーロッパ人に比べれば非常に樂天的で、快活で、諦めがよい、それは結局、吾々が自

覺するとしないとに拘らず、吾々の生命は、すめらみことと共にある、身は滅びても、國體の存する限り、すめらみことのお側にあるのだといふ信仰が、自づと潔よい武士道精神にもなれば、また今日で言ふならば喜んで　天皇陛下萬歳を唱へて死に即き得るといふ世界無比の現象も現はれて來るのであります。この意味に於て、日本精神の骨髓は、天照坐皇大御神と御一體にましますすめらみことに歸一し奉るといふ精神が日本精神の骨髓を成す、日本精神は他にあるのではない、一切が流れ出て、行ひになつて現はれる源がそこにあるのであります。この點をはつきりと把握するといふことが日本人としての自覺の根本であります。教育に從事する人々はことにこの點をしつかりと把握する必要があるのであります。外國に於ける色々な教育學から養はれて來た教育思想はその次に位するものである、日本に於ける教育學は日本教育學でなくてはならない、日本教育學の教育理想は即ち天皇信仰以外にはない、この考へに立つといふことが最も大切であるのであります。

一六、教育革新と教育の理想（其三）

また實際に於いて、詔勅を拜して見るに、伊弉諾、伊弉冉の命に賜はつた天神諸の神勅といふのがあります。「この譚へる國を修り理め固め成せ」と仰せられた修理固成の御神勅があります。この修理固成の神勅が、そのまゝ現はれて、神武天皇の「六合を兼ねて以て都を開き、八紘を掩ひて宇と爲む……」と仰せられた、謂はゆる「八紘一宇」の詔勅によつて繰返されてあるのであります。八紘一宇といふことは、八紘即ち天が下、――世界といふことであります、宇と爲すですから、それを爲宇と言はなくてはならぬといふやうなことを近頃言ひますけれども、宇と爲すといふその家が、幾軒もあるのではない、宇と爲すといふ意味は、八紘を掩ひて宇と爲すであるから、當然一つの家であります、隨つて一宇と言うて差支ないのであります。差支へないばかりではない、八紘一宇と言はなくてはならぬのであります。爲宇、即ち宇と爲すといふことは一家と爲す、一つの家と爲す、

即ち世界一家の思想であります。「この譚へる國を修り理め固め成せ」言ひかへれば、この渾沌亂離の世界に秩序を與へよと仰せられてあるのであります。世界を一家として秩序づけるといふことになります。一家といふ理想は國が幾つもあつてそれが聯合して結び合つて仲良くするといふやうな思想ではありません、各の國が、各の國の權利を主張して、さうしてたゞ平面的に平等に相連つて仲良くして行くといふやうな思想ではありません、それは聯盟思想であつて、決して一家思想ではありません、一家思想といふのは、一つの細胞に一つの細胞核があるが如く、一人の人間を一つの頭腦が支配してゐる如く、一軒の家には一人の主人が支配してゐる如く、一國にあつては、一人の主權者が支配してゐる如く、世界にもまた世界を指導する所の中心勢力といふものが自らなければならぬ、即ち一つの生命には一つの中心がある、これが一家思想であります。一つの生命の中に二つの核が即ち中心がない如く、一つの國には二人の王がない如く、世界一家の場合には、必ず世界に一つの中心が現はれて來る、それが一家思想であります。この一家思想といふのが即ち日本の國體の本義であるのであります。

近頃アジアの建設についての指導精神についていろいろ問題が起つてゐるのもその點についてゞあります、聯盟思想、國際聯盟思想で、滿洲、支那、安南、タイ、ビルマといふ風につないで行つたのではいけない、やはり一家思想で繋いで行かなくてはならぬ、即ちアジアは全體として一つの家でなくてはならぬ、各の國は立派に獨立國であつてよいけれども、その獨立國には各『位』がある、この『位』の思想といふものが、日本精神の骨髓をなす、一切のものがその中心に歸一するのであるけれども、全部が平面的な同じ價値をもつてゐるのではなく、だん〳〵位に從つて列んでゐるのである、位といふことは、非常に大切だ、例へば、滿洲國は三千萬で、日本の拵へたやうな國である、それは滿洲國としての位が、自らそこから出て來る、蒙疆は六七百萬しかない、けれどもこれも一つの民族としては、立派な獨立國になり得る、そしてそれだけの位をもつてゐる、支那は四億五千萬、これは北支那、中支那、南支那、或は邊疆と四つ位に分れるでせうが、兎に角、中華民國といふ四億五千萬人の一つの國である、四億五千萬の支那としての位を有つ、或はタイ、ビルマ、佛領印度支那、蘭領印度支那、英領印度、濠州といふやうな國々もまた、各

位をもつてゐる、アジア一家、大アジア一家の一員として加はつて來る、そのアジア一家の主人公、中心はどこにあるかと言へば、いふまでもなく日本である。あるべきであり、さうなければならぬ、さういふ風になるのが即ち一家思想である、價値と傳統の序列によつて一體化するといふことが、即ち一家思想である。この一家思想を、今度の三國同盟の時に、賜はつた御詔勅の中に、はつきりと仰せ出されてあるのであります。

即ち「萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シメ」といふ、萬邦をその價値と傳統とによつてその所を得しめ、適當に、一家思想で序列するのが、日本の世界新秩序建設の理想であります。「萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンセシムル」かういふ考へ方が即ち日本精神であるのでありますが、その萬邦をして各其の所を得しめるといふ、萬邦得所と簡單に言へますが、萬邦得所の三國同盟の御詔勅と、神武天皇の八紘一宇の御詔勅と天神諸の修理固成の御神勅とは、精神が一貫してゐます、同じ精神が別な言葉で言はれてゐるのです、この一貫性をはつきりと知らなくてはならぬ、修理固成、八紘一宇、萬邦得所、この三つの詔りが一貫してゐる、これが世界新秩序建設の方式として示されてあると

ころに日本の理想が輝いてをるのであります。天皇は日本の天皇であられるばかりではなく、全世界の天皇であらせられる、今はその道程である、世界の天皇の本質の顯現によつて、世界は本當の平和に到達することが出來るのである、この信念を吾々が胸深く有つといふこと、これが、日本人をして日本人たらしむる所以であり、教育者たらしむる所以であるのであります。この點だけは、ハツキリ把握して頂かなくてはならぬ、これだけを申上げて、教育の理想についてはお終ひに致します。

一七、教育制度の革新

次に教育の制度についてであります。教育の制度はだん〳〵今日では宜しい方向に進んで來たと存じます、八年制國民學校の實施は、國民教育の地位を高めるといふことだけでなしに、このことによつて、新しい日本教育が出發するのだといふことを深く考へて頂きたいのであります、前に八年制の徹底といふことを申しました時に申上げたやうに、國民

學校は、近い中には、當然全部八年制が實施せられて、中途で國民學校の六年を卒へたものが、中學校に行くとか、商業學校に行くとか、女學校に行くとかいふことはなくなるものでありませう。またなくしなければならぬが、さういふことになれば、中學校の存在意義といふものは、自らずつと輕くなる、本當を申せば、謂はゆる中等學校といふものは、今日では非常に怪しげな存在になつて居ります、女學校は、嫁入學校の體裁を有つてゐるに過ぎず、中學校は、高等學校豫備校の體裁を有つてゐるに過ぎない、かういふ教育制度のまゝにして、國として運命を打込む教育力をこれに集中するといふやうなことは間違ひであります。やはり、中學校、女學校を施設するならば、中學校、女學校を完成教育としてやるのでなければならぬ、中等學校教育を終つたものは、もうそのまゝで完成した教育であるといふ考へ方へ當然持つて行かるべきものであります、それよりは、中等學校といふやうなものを全廢して、正しく言ふならば、青年學校一本に歸一してしまふのが日本としては教育システムを正す所以であるのであります。それで專門學校、大學といふやうなものゝ必要に應じてそれらに行く人は、さういふ大學豫備校、專門學校豫備校といふもの

を二年制か三年制で拵へて、さうして今日の高等學校、大學といふものを一つのものにしてしまふ。一つのものとして大學教育とする、さういふやうな制度が當然立てられなくちやならぬと思ふ、つまり、これは教育の出發點に於て貧富の差、富んだものは中等學校に入るとか、貧乏なものは青年學校へ入るといふやうな物の考へ方に出發してゐる——謂はゆる流行り言葉で言ふならば、資本主義的考へ方に隨して、本當の國民教育、一體としての國民教育の精神に則つてゐないのですから、當然そこまで改めなければならぬが、過渡的には、中學校も女學校も三年制にして、それで、今の高等學校へ繋ぐか、或は五年制の高等學校といふものを作つてその上に大學を置くか、さういふやうな制度がこゝに考へられなくちやならぬと思ふのであります。更に專門學校に至つては、前申しましたやうに、今日工業技術家といふやうなものが非常に手薄であります、工業技術家養成には、工業學校といふやうなものがもつと〳〵多く施設せられることが必要であります。師範學校については、前申したやうに、根本的に改善しなくちやなりませんが、先づ、これを專門學校程度まで引上げるといふことが前提であります。現行師範學校本科教育は、良い所もある

が、惡い所もある、高等師範學校の教育が今非常に非難されてゐるのでありますが、高等師範の教育は、人間を因循姑息にするやうな教育であるといふ點が最も強く非難せられてゐます、教育文化の方面の中央協力會議に於ける委員長であつたといふ關係でありませうが、私のところに澤山に投書が參りました。高等師範を全廢しろ、といふのであります、大學教育を受けたものを講習して教員に採れば宜いではないか、高等師範學校といふものを別に置く必要はない、文理大すらも變なものだと、かういふやうな意見が相當に出て來て居ります。それは何處から出て來るかといふと、教員といふものは人の師表になるから行ひを愼まなくてはならないといふやうなことにばかり重きをおく、高等師範は教育者を師表病に罹らせる、これは人間を因循姑息にして伸び〳〵した所をなからしめる、伸び伸びした所のない人間は、どうも疑ぐり深くて素直に子供を育てさせるに適しない、子供をひねくれさせる、もつと氣宇廣大濶達なる精神を育成する爲には、師表病から教員を解放しなければならぬといふのが根本の主張のやうであります、諸君も大體半分位は師表病に罹つてゐるか分らぬ(笑聲)、これは將來氣宇廣大なる日本を背負つて立つ教育者としては

大いに考へなければならない、餘り窮屈にとぢ込めてしまつて世の人々のすることを教員なるが故に出來ないといふことでは困る、さうかと言つて、人の悪いことを眞似る必要はないが、人並のことを教員もするやうでなければ第一世間が分らない、人情が分らない、一體、今日は教育者も、村や町の政治家も、或は一般農民も勞働者も、その境を撤廢してその闘を撤廢してしまつた一人の國民として交際つて行かなくてはならぬ時代になつて來て居ります。さういふことを考へて見ると、教育者は擧げて世間が狹い、教育社會のことだけ考へてゐるものだから、月給の三圓、五圓といふことが氣になつて、その物質的待遇のことに頭腦を惱まされてゐるやうな傾きがあると言はれるのであります(笑聲)、諸君は非常に朗かに笑つて居られるから、さういふことはないと思ふのでありますが、概ね職員室の會談なるものが立身出世以外に出ない、その立身出世も餘り勇ましい大きな立身出世でなく、極く小さなことが、人の噂が話題に上ることが餘り多過ぎはしないか、大きな日本國の運命を背負つてゐる教員としては少し物足りないといふのが一般の見る所でありますが、それは結局根柢に於て、やはり拔き難き師表病に罹つてゐる、拔き難き師表病の清

算といふことは、高等師範教育から先づ革めて行かなければならぬ、高等師範が改まれば地方師範の教育方針も改まつて行く、この意味で、この頃、師範學校を專門學校に引直す機會に師範學校精神といふものを新に立てゝ行つて欲しい、かう思ふのであります。

一八、教育の生産性並に科學性

次に教育方法論についてゞありますが、要點だけを申上げます。それは教育の生産性についてゞあります。今日は物資不足の時代であります、どういふ風に教育と生産とを結びつけるか、その案もありますが、時間を持ちませんから詳しくは申し上げられませんが、詰り、雜形として勞働させるか、生産者として勞働させるか、この點であります。

勞働の雜形として勞働の習慣を養ふといふやうな筋肉主義教育といふやうなものでなしに、もう一歩前進した生産勞働に兒童を使つて行くといふところまでもつて行きたいのであります。學びながら働き、働きながら學ぶ教育を實際の國民學校教育に採入れて行きた

い、かう思ふのであります。これは國民學校五年生以上には、十分に採入れられてよいと思ふのであります。その方法としては、或は季節的に勞働をさせることも宜しい、或は半日教授、半日勞働といふやうな方法で採入れることも出來ようと思ひます。而も生産性を與へるといふ意味は、この畑はこの學級が作つたのだ、この學級が作つたこの畑からこれだけの收獲が現はれたといふことをちやんとレコードするやうな教育をしたいのであります。教育に實際生産を持込むといふこと、それによつて生産者としての興味を誘發すると同時に、物資不足の時代に於ける國の生産の一助にもするといふさういふねらひが色々あらうと思ひます、それについて考へて戴きたい。それから前申しました科學的實踐性を重視して欲しい、これも無形として科學的な技術を授けるのでなくして、もつと實踐的にそれ自體が役に立つやうな、詰り、例へば、電燈の修理といふやうなことを兒童自身が自らやるやうに導いて欲しい、さういふ意味であります。詰り紙の上で、或は頭腦の上だけで科學的知識を修得するのでなくして、それを實行の上に、生活の上に生かして行くといふ科學的實踐性を重視して行きたい、それから銃後と學校教育とをぴつたりと結びつけて欲

しい、詰り銃後運動を村人がやるといふことの中に、兒童の働きを持ち込んで貰ふ、さうすることによつて、この時局意識に副ふ所の、職域奉公の觀念を兒童自身が懷くやうになる、教室に閉ぢ込めて講議することに血道を擧げる代りに、色々な銃後運動のある毎に、年齢相當にそこにひき出して、その中に交へて皇道を實踐せしめるといふやうな方法を執つて欲しい、この三點がその方法論に於ける差當りの要點であると思ふのであります。

一九、學生動員と婦人動員

當然近い中には、學生動員をやらなくてはならぬでありませう、第一次には、專門學校以上の、高等學校、專門學校、大學に至るまでの學生は、全部動員せなければならぬでせう、それは前線に征つて、銃砲擔ぐといふことよりも、工場勞働、農業といふ方面へ、これらの學生青年を動員する、夏休を一月も一月半も、或は學校によつては二月も取つたりして悠長に若い者をひたらしてゐるべき時代ではないので、人手がだん〳〵足りなくなる

に從つて、學生動員は當然始まるでありませう、同時に中等學校の學生に對する動員もそれに次いで生産勞働への結びつきが始められなくてはならなくなると思ふのであります。教育は、臨戰態勢が深まれば深まるに連れて、方向が變つて行くといふことを先づ意識して、それに對應する準備を青年學校、國民學校から段々やつて行かなくてはならぬと思ふのであります。固定した考へで、また從來の謂はゆる保守的な考へで教育に從事するといふやうなことは、甚だ迂濶であるといふことを先づ反省して戴きたい。それ〴〵教育の筋から通牒もありませうけれども、時代の方向はその方向へ向いてゐるといふことを考へて戴きたいのであります。

今日は、婦人の方が割合に少ないが、一寸不思議に思ふほど少ない、この間、千葉縣に行つたら、千葉縣は大體五割五分位が婦人教員であるといふことである、この邊も、當然七割位までは婦人でやつて貰はなければならぬといふことになるでありませう。女子教員の問題――これは重大な問題であります、また女子教員の問題を問題とすると同時に、全般の女子教育の問題、これも重大であります。この間、協力會議で高良富子さんがかういふことを言つた、婦人思想生活體制といふやうなものを考へてほしい。婦人の生活に對する指導方針が定まらなくてはいかんといふのであります。殊に戰爭が長引くに連れて、未亡人といふものもだん〴〵殖ゑて行きます、職業戰線が擴まるに連れて、貞操問題といふものもだん〴〵現はれて參ります、これらに對して、社會指導の新しい考へ方がそこに當然生れて來なければならぬ、でないと取返しのつかない過ちを犯すやうな結果になりはしないかといふことを憂慮しての發言でありましたが、一般女子教育の問題としては、今は觸れないと致しましても、女子教員の問題については、ヨーロッパ諸國では八割から八割五分までも女子教員で間に合つてゐるのでありますから、銃後の國民教育は私共で背負つて立ちませうといふ意氣が婦人の中から燃え上らなければならぬ、たゞ消極的に職業戰線へ飛び出したといふやうな考へ方だけでなしに、或はまた家庭婦人になるまでの繋ぎといふやうな意味でなしに、家庭を持つても尙ほ教育者であつて、その産前産後に於ける色々な方策は別に講ずるとして、銃後奉公の意味に於て、國民教育は私どもが背負つて立ちませう、私どもが引受けませうといふ、さういふ意氣を女子教員諸君に持つて貰はなくては

ならぬ、商店の、配給事業もまた女が引受けなければならぬやうになります、配給に屬する部面は、女がやらなくてはならぬ、今日では工業部面に於ても、技術の優れた女子がだん〳〵從事してゐるのであります。これは利弊も考へて見なければならぬ、詰り利もあるが害もあり、社會風俗の上には驚くべき惡結果を來さぬとも限らぬのでありますから、隨つてそこに婦人職業戰線に於ける新しい倫理が生れて來なくてはならぬ、それについては色々考へてゐることもありますけれども、餘り長くなるのでこれ位に致します。

二〇、結局日本が世界指導の中心

最後に結論的に申上げますれば、今次の戰爭は、無限戰爭である、復員のない戰爭である、總力戰である、さうして、それは全世界が戰亂の坩堝に投げ込まれてしまつてゐるのであつて、何處からも助け船を出す、仲裁口を利くといふものがなくなつてしまつてゐるのである。隨つてこれは何處までも發展して行つて、それは最後に幾つかの國が幾つかの

國を捻ち伏せ終るまで繼續する、而も捻ち伏せ終つた幾つかの國々、その國々がまた直ちに戰ひを始めるやうな結果にならぬとも限らない、これはまた日本に課せられた一つの運命でもある、たゞ吾々が頭から放してならない點は、最後の決を握つてゐるものは世界を見渡したところ日本國以外にはない、日本國が中心になつて世界を指導し得るやうな地位に立つた時になつて、初めて世界が和平を得ることになり「萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ」るに至るのである。そこまで前進しなくてはならぬといふ覺悟を、しつかりと決めてかゝらねばならぬといふのであります。

これを以て私の話を終ります。」

皇國教學の大本